

「七人の侍」の呪縛から解き放たれた時代劇「もののけ姫」

Tadao Satoh 佐藤忠男

Period Drama Discussion Released from the spell of [Seven Samurai] to make the period action/drama [Princess Mononoke]

「もののけ姫」は時代をたぶん室町時代あたりに設定している。だから常識的に分類すればこれは時代劇ということになる。しかし従来の時代劇の概念には全くあてはまらない構想で成り立っていて、日本映画としては新しい分野を斬り開いたものだと言うことができる。

時代劇とは、明治になる以前に題材をとった映画の総称であるが、実際にはその殆どは江戸時代を扱っており、それも後期が主である。小教、戦国時代から源平時代を扱ったものもあり、時代劇の概念はほぼその範囲におさまっている。主な登場人物はまず武士か侠客、あるいは闘つ引きであり、彼らによって演じられる剣などによる斬り合い、すなわちチャンバラが大多数の時代劇のいちばんの見せ場であって、ファンはそこで、ひいきのスターたちの演じるヒーローの英雄豪傑ぶり、剣士ぶりを見ることにお目あてであった。

主流のチャンバラに対する傍流として、立ち廻りに主眼をおかない、あるいはそれを全く欠いた町人たちのドラマも小教あつた。これは人情ものかあるいは恋愛ものである、封建制度のために容易に結ばれない男女の恋や心中を扱っていた。主流としてのチャンバラと、傍流としての人情もの、心中ものというあり方は、そっくり、歌舞伎における荒事と和事、あるいは時代ものと世話ものに相当する。というより、時代劇映画というのはそもそもが歌舞伎の

人々によって1910年代から始まったものであり、彼らは歌舞伎の内容形式をそっくり映画に持ち込んだのである。ただ、江戸時代の現代劇である和事あるいは世話ものは喋々々々々の恋の口説を楽しい会話劇であり、無声時代の、しかも子どもが観客の主な部分を占める映画には適当でなかったから傍流となった。他方、英雄豪傑が大暴れをする荒事や時代ものならトリックや編集でアクションをいっそう誇張することも可能であるから映画ではいっそう発展して主流となった。

こうして時代劇は歌舞伎から出発したが、1910年代に流行した立川文庫その他の子ども向けの講談本を取り込んで、英雄豪傑の大活躍を際限なく拡大していったし、歌舞伎にも少しはあつた忍者のものをトリック撮影、つまりSFXの工夫で巨大な分野に発達させることになる。さらにこの講談本を発達させたかたちで、1920年代になると大衆小説と呼ばれたチャンバラ小説が流行し、時代劇映画も講談本から大衆小説に原作を移行させてゆくことによって内容も大人の鑑賞に耐える深味のあるものになってゆくのである。すなわち1920年代も後半になると、単なる英雄豪傑とは違う、ニヒリストの剣士とか、恋に苦悩しながら人を斬る侍、忠義という公式のモラルに疑問を持った武士など、近代的、現代的なキャラクターも登場するようになる。1930年代はそうした複雑な陰を持つヒー

ローたちを活躍させることによって時代劇の黄金時代となるのである。

江戸時代後半を主にしてせいぜいさかのぼっても源平時代まで、登場人物は武士か侠客を主として小教町人を含むという時代劇の大枠は不動のものだったが、その大枠を超えようとする試みがなかったわけではない。古くは1925年の衣笠貞之助監督の「日輪」が古代の有名な卑弥呼を描いている。ただこの作品は右翼の妨害によって満足な上映はできなかった。卑弥呼は天皇家の先祖かもしれないからその映画化は不敬にあたる。というのが右翼の主張だった。検閲官のほうもむしろ、神武天皇即位以来、皇紀2600年と言う以上、年代的にその可能性はないと言ってパスさせていたにもかかわらずである。

外国にも古代ものと呼ばれる映画の分野があるが、その主軸をなしているのは宮廷ロマンスである。ところが日本の場合、この「日輪」のように、不敬よばわりされる怖れがあつたために容易に発達しなかった。1939年の野淵和監督の「紫式部」は当時検閲で全体の3分の1もカットされたという。戦後になってやっと「源氏物語」なども映画化可能になったが、やはり及び腰で、この分野は日本映画に定着したとは言えない。宮廷もので唯一、素晴らしい出来ばえだったと私が思うのは、すでに武家に実権を奪われてデカダンスにおちいつている鎌倉時代の京都の朝廷の愛欲図絵である

「あさき夢みし」(1974年、実相寺昭雄監督) ぐらゐのものである。奈良時代を扱ったものでは「大仏開眼」(1952年、衣笠貞之助監督) や「天平の甞」(1980年、熊井啓監督) など、仏教伝来にかかわる作品があり、鎌倉時代ごろまでなら親鸞や日蓮を主人公にして仏教の発達を主題にした一連の非チャンバラ時代劇の系譜もある。なかには田坂具隆監督の「親鸞」「続親鸞」(1960年) のような力作もあるのだが、これら古代、中世ものに共通する難点は、生活と風俗のデテイルが掴めないことである。映画はやはり、画面を見てそこに生活の実感が感じられるようでないストーリーの中にもとけ込んでゆけない。その点江戸時代ぐらゐなら、考証の間違ひはいくぶんあるにしても、風俗の隅々までまことしやかに描くことができ、そこになんとも言えない風情とか、かつてよく親しんで身についていたはずの世界にとつぷりとひたるくつろぎの気分などを味わうことができる。しかしこれが、中世から古代へとさかのぼると、そこに描き込まねばならぬ生活と風俗の細部は殆んど全く空想の産物になり、リアリティを感じさせるなどということとは不可能に近くなつてゆく。だいたい歴史学者たちでさえ、そんなことに関心を持つ人たちは少なく、近年ようやく、昔の絵巻物などを美術というよりは歴史資料として分析する研究書など出はじめるようになった程度である。民衆の生活の研究に関

しては民俗学者や考古学者にまかされていたが、それでも、出土品や口承の資料はかなりあっても映像を喚起するようなイメージ的な資料は減少しない。

そんなわけで、古代や中世は時代劇では特別な例外的な作品にしか描かれない。身分や職業もそうである。すでに述べたように、時代劇に登場する人物たちの圧倒的多数は武士であり、次いで町人、あとは僧侶や若干の貴族である。農民は1930年前後に左翼的なプロレタリア映画が流行った時期にその時代劇版として百姓一揆ものはいくつか作られたことがあり、そこでは活躍した。そして戦後、亀井文夫監督の「無頼漢長兵衛」（1949年）では明智光秀を殺した百姓が主人公として登場する。亀井文夫は旧ソビエトに留学したコミュニストだったので、落武者狩りで思わぬ賞金稼ぎをして有頂天になった百姓たちが宴会でロシアのコサックダンスで浮かれ騒ぐというノテンキぶりにあつげにとられた記憶がある。当時はそれをバカバカしいと思ったが、のちにイタリアのピエール・パオロ・パゾリーニ監督が古代ギリシャ悲劇を映画化した作品に邦楽が伴奏に使われていたのを見て、どうせ時代考証でデテイルを埋めることができる時代のことを描くときには、そんなふうに国境を超えて適当な表現をモンタージュ若しくはカラージュするもの面白いではないかと思うようになった。こんどの宮崎駿のアニメーション「もののけ姫」では、エミシの一族が現代のネパールあたりの民族衣装になっているが、これなどはむしろ、突飛でもなく、ほんとにそんなものだったろうと思わせる風俗になっている。

宮崎駿によればいまの日本人の歴史イメージは、1954年の黒澤明監督の「七人の侍」に強く影響されているという。これは戦国時代のある農村を舞台にしたもので

野伏りと呼ばれていた野盗の群れの襲撃に悩まされた村人たちが、合戦に負けて浪人して街道をうろついている侍たちを雇ってきて彼らの指揮の下で戦うという物語である。じっさいにそうした事実もあったようであり、黒澤明はそれまでの時代劇があまりにも歌舞伎的様式の影響下にありすぎたことを否定してリアリズム時代劇を確立するために可能なかぎり本当らしさを追求してこの映画を作ったのだった。じっさい、生活風俗や登場人物すべての立居ふるまい、戦闘のすすめかたなど、それまでの恰好いきれいごと時代劇にはないナマナマしさを表現することができてこれは画期的な作品となったのだが、英雄的で堂々とした侍たち対卑屈でずるくて恰好悪い百姓、という対比の図式は、はたしてそうか、と私などもかなりの疑問を持ったものである。

前述の「無頼漢長兵衛」でも描かれていたように、戦国時代の百姓は合戦があると落武者狩りをやった。つまりけっこう兇暴だったのである。侍など雇わなくても自分たちだけで自衛する武力や才覚も持っていたのではない。1969年の木下恵介監督の「笛吹川」（深沢七郎原作）では、この時代の農民が合戦があるとすぐ武装して領主のもとにはせまじ、手柄をたてて武士になろうとする様子が描かれていた。こちらのほうがよほど真実に近いと思われるが、侍は義に生きて恰好よく英雄的であり、農民はエゴイズムで侍を利用するだけ、という「七人の侍」のほうが階級社会についてのわれわれの先入観にびったりしていて、「笛吹川」が「七人の侍」のイメージを打ち消すという具合にはならなかった。

深沢七郎といえば名作「楢山節考」によって農民のイメージのもっとも見事な表現のひとつをうちたて、それは木下恵介と今村昌平によって二度も映画化され、農民を描いた時代劇の代表となっているが、あま

りにも特異なストーリーであるためにこれが農民時代劇といったジャンルに発展するということはなかった。他にはやはり深沢七郎の小説による市川崑監督の「東北の神武たち」（1957年）があつた程度である。

町人、職人はしばしば時代劇の主人公になった。これは前に述べたように歌舞伎の和事、世話物の流れをくむもので、心中ものなどの恋愛悲劇がその主軸であり、さらに1960年代頃から山本周五郎の江戸市井の町人、職人を扱った人情味あふる小説が高く評価されるようになると、その映画化がこの流れを受け継いだ。歌舞伎が階級社会の悲哀を嘆いてばかりいたとすれば、山本周五郎ものは封建時代なればこそ人間関係の濃密さをなつかしむもので、そこに変化がある。さて、こうして時代劇が描いてきた時代と身分、職業をざっと見てきたが、最近急速に発達した歴史研究をふまえて見直すと、大きな空白がいたところにあることに気づかずにはいられない。天皇制の圧力でおさえつけられていたのは宮廷ロマンスだけではなく古代史の研究全体であつたから、われわれのこの時代についてのイメージは生育せず、縄文や弥生時代についてのドラマをまだ持てないでいるし、古代史全体が殆どドラマの未開の分野として残されている。溝口健二監督の「山椒太夫」（1954年）が古代の荘園の奴隷労働を扱っている程度である。中世から近世にかけても多くの身分や職業が未知のままにおかれている。最近、歴史学者の網野善彦が、百姓という言葉は農民だけでなく、非常に多様な職業の総称だったと主張しているが、百姓即農民という先入観によってわれわれのイメージは大きく制約されていたのである。

「もののけ姫」は人間の集団と森の神々との闘争を主題にしているが、ここで人間の集団の主力になっているのは、タタラ者

と呼ばれる製鉄技術集団である。彼らは鉄をつくるために燃料にする木を切り、森を破壊してゆく。そこで、宮崎駿の「風の谷のナウシカ」以来の主題である自然破壊の問題が、なにか人間の宿命的な原罪のようなものとして彼らによって担われて出てくるわけである。タタラ者という、従来の歴史でも時代劇映画でも殆ど無視されていた職業が、こうして人類史的な意味を最も尖鋭に持つ存在として現れる。

さて、農民以外の百姓は、他にこれまで時代劇に登場したことがあつたかどうか。岡本喜八監督の「戦国野郎」（1963年）には馬借つまり馬による運送屋集団が忍者たちとともに現れた。田中徳三監督の「鯨神」（1962年）では、紀州の鯨とりの漁民たちが描かれていた。これはどうも、アメリカ文学の古典「白鯨」とジョン・ヒューストン監督によるその映画化の向こうを張ったものではなかったかと思うのだが、鯨とりで競い合う漁民たちの民俗も面白く描けていて、出色の作品だった。しかし漁民というのは海国日本にとって非常に大きな存在だったと思うのだが、他にあまり漁民の映画も思いうかばないというのは、日本の時代劇が、長年、大量生産されてきた日本映画の半分も占めていたのに、いかに想像力がせばめられ、限られた範囲のことを型にはめて描いてきたにすぎなかったということを示している。民俗学者の柳田国男がしきりに強調した山の民のことなど、殆ど時代劇では無視されてきた。

「もののけ姫」は室町時代頃の話であるが、当時すでに支配者だった武士は出てこないし農民も出てこない。大和朝廷によって東北に追いはられたエミシの一族の青年が、西からやってきた猪の怪物のタタリ神にたたられて、その謎を解くために西に旅をし、タタラ者たちと森の動物の神々との死闘に巻き込まれるという、これまでの

時代劇の定型から極力遠いところに成り立った物語である。タタラ者たち同様、エミシというのもこれまでの時代劇の視野の外におかれていた存在である。こういう人々の立場から見ると、日本の歴史がかつてとは違ったものとして見えてくる。いちばんの違いは、封建社会における身分の上下の葛藤というところに主として主題を設定していたところから、さらにもっと大きく、征服民对被征服民、さらには自然対自然破壊者といった問題が見えてくることであり、さらには自然に対して大きな畏れを抱いていた昔の人々の心情が見えてくることである。「もののけ姫」では、猪や狼たちがまるで牛ぐらいの大きさに堂々と現れる。昔の動物たちがそんなに大きかったとは思わないが、当時の人間から見てそんなにも堂々たる姿に見えたであろうということは容易に想像できる。

「もののけ姫」は確かに「七人の侍」の呪縛を解いて時代劇の新しい世界を斬り開いた。

高い志と鍛えあげた武術を持つ武士対、ただ本能的にその日その日を生き延びるべく卑屈な農民、という単純な対比をやって、民衆の中に発達していた高度な技術と、その技術を支えていた集団が描かれる。そこは、労働は厳しいが、どうやら奴隷労働ではなく、女たちが生き生きしているところをみると自治的な組織だったらしい。そういう時代の先端を行く生き生きした連中が自然破壊の先頭に立つのである。このアンビバレンツから奥深いドラマをつむぎだし、階級史観では解けない現代の課題に宮崎駿は勇敢に立ち向かっている。

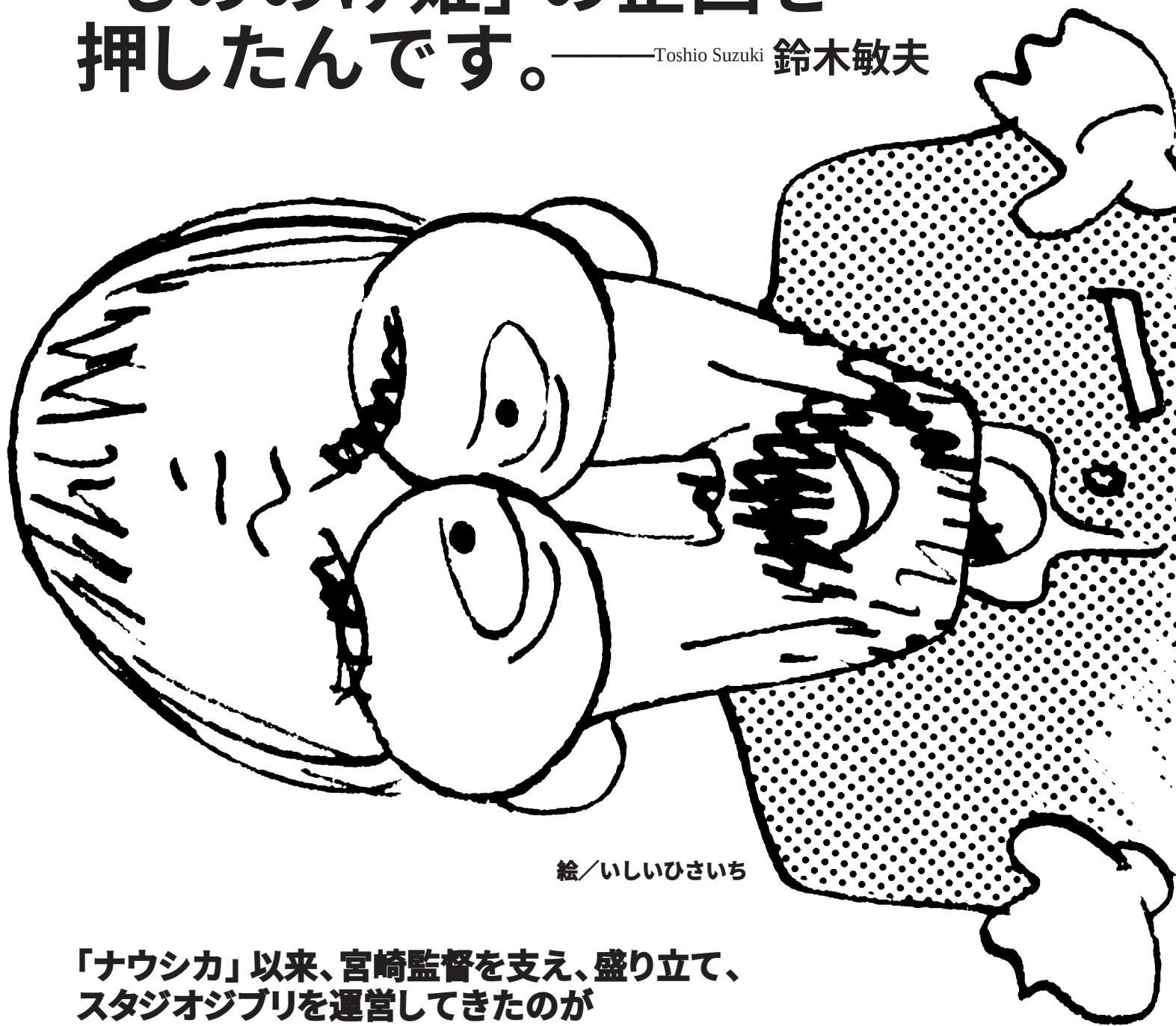
時代劇映画ベスト100本

野口文雄・責任編集

年号	タイトル	製作会社	監督	主演
明治29 (1896) 年歌舞伎「紅葉狩」を撮影・これが日本最初の劇映画にして時代劇と言われる。				
1909 (明治42)	碁盤忠信	牧野省三	牧野省三	尾上松之助 (日本映画第1号スター)
1925 (大正14)	雄呂血	阪妻プロ	二川文太郎	阪妻妻三郎
	日輪	マキノ映画	衣笠貞之助	市川猿之助
	荒木又右衛門	日活	池田富保	尾上松之助 (一千本記念)
1926 (昭和1)	長恨	日活	伊藤大輔	大河内伝次郎
1927 (昭和2)	忠治旅日記・三部作	日活	伊藤大輔	大河内伝次郎
	尊王攘夷	日活	池田富保	大河内伝次郎
1928 (昭和3)	浪人街	マキノ映画	マキノ正博	南光明
	放浪三昧	千恵プロ	稲垣浩	片岡千恵蔵
1929 (昭和4)	新人新馬剣	松竹	伊藤大輔	月形龍之介
1930 (昭和5)	旗本退屈男	右太プロ	古海卓二	市川右太衛門
	興亡新撰組	日活	伊藤大輔	大河内伝次郎
1931 (昭和6)	侍ニッポン	日活	伊藤大輔	大河内伝次郎
	仇討選手	日活	内田吐夢	大河内伝次郎
1932 (昭和7)	国士無双	千恵プロ	伊丹万作	片岡千恵蔵
	研辰の討たれ	千恵プロ	伊丹万作	片岡千恵蔵
1933 (昭和8)	盤嶽の一生	日活	山中貞雄	大河内伝次郎
	丹下左膳・第一篇	日活	伊藤大輔	大河内伝次郎
1934 (昭和9)	風流活人剣	日活	山中貞雄	片岡千恵蔵
1935 (昭和10)	気まぐれ冠者	千恵プロ	伊丹万作	片岡千恵蔵
	丹下左膳余話百万両の壺	日活	山中貞雄	大河内伝次郎
1936 (昭和11)	河内山宗俊	日活	山中貞雄	河原崎長十郎
	赤西蠣太	千恵プロ	伊丹万作	片岡千恵蔵
1937 (昭和12)	戦国群盗伝	P・C・L	滝沢英輔	河原崎長十郎
	エッケンのちゃっきり金太	P・C・L	山本嘉次郎	榎本健一
	人情紙風船	前進座・P・C・L	山中貞雄	中村錦之助
1938 (昭和13)	阿部一族	東宝・前進座	熊谷久虎	河原崎長十郎
1939 (昭和14)	うくひす侍	日活	丸根賛太郎	片岡千恵蔵
1940 (昭和15)	宮本武蔵・全三部	日活	稲垣浩	片岡千恵蔵
1941 (昭和16)	昨日消えた男	東宝	マキノ正博	長谷川一夫
(太平洋戦争始まる)				
1942 (昭和17)	大村益次郎	新興キネマ	森一生	市川右太衛門
1943 (昭和18)	伊那の勘太郎	東宝	滝沢英輔	長谷川一夫
1944 (昭和19)	菊池千本槍	大映	池田富保	市川右太衛門
			白井戦太郎	
1945 (昭和20)	狐の呉れた赤ん坊	大映	丸根賛太郎	阪妻妻三郎
(終戦)				
1946 (昭和21)	歌麿をめぐる五人の女	松竹	溝口健二	坂東妻助
1947 (昭和22)	素浪人罷通る	大映	伊藤大輔	阪妻妻三郎
1949 (昭和24)	斬られの仙太	東宝	滝沢英輔	藤田進
1950 (昭和25)	羅生門	大映	黒澤明	三船敏郎
1952 (昭和27)	虎の尾を踏む男達	東宝	黒澤明	大河内伝次郎
(終戦直後に上映禁止になっていた作品)				
	西鶴一代女	新東宝	溝口健二	田中絹代
	箱根風雲録	新星プロ・前進座	山本薩夫	河原崎長十郎
1953 (昭和28)	月物語	大映	溝口健二	京マチ子
	地獄門	大映	衣笠貞之助	長谷川一夫
1954 (昭和29)	七人の侍	東宝	黒澤明	三船敏郎
	山椒太夫	大映	溝口健二	田中絹代
	近松物語	大映	溝口健二	長谷川一夫
	笛吹童子	東映	萩原遼	東千代之介 中村錦之助

年号	タイトル	製作会社	監督	主演
1955 (昭和30)	血槍富士	東映	内田吐夢	片岡千恵蔵
1956 (昭和31)	赤穂浪士	東映	松田定次	市川右太衛門
	大地の侍	東映	佐伯清	大友柳太郎
1957 (昭和32)	蜘蛛巣城	東宝	黒澤明	三船敏郎
	柳生武芸帳	東宝	稲垣浩	三船敏郎
	大菩薩峠・第一部	東映	内田吐夢	片岡千恵蔵
	幕末太陽伝	日活	川島雄三	フランキー堺
1958 (昭和33)	櫛山節考	松竹	木下恵介	高橋貞二
	隠し砦の三悪人	東宝	黒澤明	三船敏郎
1959 (昭和34)	東海道四谷怪談	新東宝	中川信夫	天知茂
	浪花の恋の物語	東映	内田吐夢	中村錦之助
	薄桜記	大映	森一生	市川雷蔵
1960 (昭和35)	笛吹川	松竹	木下恵介	田村高広
	不知火検校	大映	森一生	勝新太郎
1961 (昭和36)	用心棒	東宝	黒澤明	三船敏郎
	反逆児	東映	伊藤大輔	中村錦之助
	宮本武蔵	東映	内田吐夢	中村錦之助
1962 (昭和37)	切腹	松竹	小林正樹	仲代達矢
	槽三十郎	東宝	黒澤明	三船敏郎
	座頭市物語	大映	三隅研次	勝新太郎
	忍びの者	大映	山本薩夫	市川雷蔵
	暁の母	東映	加藤泰	中村錦之助
1963 (昭和38)	闇の弥太っぺ	東映	山下耕作	中村錦之助
	十三人の刺客	東映	工藤栄一	片岡千恵蔵
1964 (昭和39)	暗殺	松竹	篠田正浩	丹波哲郎
	怪談	文芸力にんげん	小林正樹	仲代達矢
	眠狂四郎勝負	大映	三隅研次	市川雷蔵
1965 (昭和40)	侍	東宝	岡本喜八	三船敏郎
	赤ひげ	東宝	黒澤明	三船敏郎
1966 (昭和41)	運がよけりや	松竹	山田洋次	ハナ肇
	番掛時次郎・遊侠一匹	東映	加藤泰	中村錦之助
1967 (昭和42)	上意討ち・拝領妻始末	東宝	小林正樹	三船敏郎
1968 (昭和43)	斬る	東宝	岡本喜八	仲代達矢
1969 (昭和44)	風林火山	三船プロ	稲垣浩	三船敏郎
	赤毛	三船プロ・東宝	岡本喜八	三船敏郎
	人斬り	勝プロ・フジテレビ	五社英雄	勝新太郎
1970 (昭和45)	座頭市と用心棒	勝プロ	岡本喜八	勝新太郎・三船敏郎
1971 (昭和46)	いのちぼうにふろう	俳優座映画放送・東宝	小林正樹	仲代達矢
1972 (昭和47)	子連れ狼・子を買い戻しつかまつる	勝プロ	三隅研次	若山富三郎
1974 (昭和49)	狼よ落日を斬れ	松竹	三隅研次	高橋英樹
1978 (昭和53)	柳生一族の陰謀	東映	深作欣二	萬屋錦之助
1979 (昭和54)	戦国自衛隊	角川春樹事務所	斎藤光正	千葉真一
1980 (昭和55)	影武者	黒澤プロ・東宝	黒澤明	仲代達矢
1981 (昭和56)	炎の如く	大和新社	加藤泰	菅原文太
	魔界転生	東映	深作欣二	沢村研二
1983 (昭和58)	里見八犬伝	角川春樹事務所	深作欣二	薬子丸ひろ子
1985 (昭和60)	乱	ヘラルド・エース・仏 クレニッテフィルム・プロダクション	黒澤明	仲代達矢
1989 (平成1)	千利休・本覺坊遺文	セゾングループ	能井啓	奥田瑛二
1990 (平成2)	天と地と	「天と地と」委員会	角川春樹	榎本孝明
	浪人街	松竹・日本テレビ		黒木和雄 原田芳雄
1993 (平成5)	子連れ狼・その小さき手に	小池一夫事務所	井上昭	田村正和
1997 (平成9)	もののけ姫	スタジオジブリ	宮崎駿	声 松田洋治 石田ゆり子

宮崎さんにとって、
力技で映画を撮る
最後のチャンスだと思い、
「もののけ姫」の企画を
押したんです。——Toshio Suzuki 鈴木敏夫



絵／いしひせい

「ナウシカ」以来、宮崎監督を支え、盛り立て、
スタジオジブリを運営してきたのが
鈴木プロデューサーだ。

「もののけ姫」の企画立ち上げの立役者でもある鈴木氏に、
宮崎監督、そしてジブリの今後をうかがった。

●スタッフ・インタビュー●—————producer【プロデューサー】

——映画を観た人達の反応は、感觸としていかがですか？

おかげさまで基本的にはいい反応です。色々な意見があるんですが、特に「スゴイツ」という方が多いですね。「泣きました」とか「感動した」とおっしゃる方もいました。

一番嬉しかったのは、キャンペーンで仙台に行ったとき、ラジオのインタビュアーで「実は『ロスト・ワールド』も観て、あれはあれで面白かったんですが、『もののけ』の方が良かった」と言われたことです。何が良いかったかと言うと「感動がある」と。ラジオでそう言って頂くと有難いなと思います。

——目標の配収六十億円は達成でき
ると思いますか？
それは全然分かりません。

ただ、これだけお金掛けると、ペイ・ラインが三七億円になるんですよ。『紅の豚』の配収が二八億円。あれはあれで大ヒットなんですけれど、そのぐらいいではペイしない。だからまずは三七億円を突破したいですね。そして少しでも六〇億円に近づけたらたまた有難いなと思います。

——最初の頃の作品のイメージと完成後との差はいかがですか？

実は、当初ふたつの企画があつて、私は『もののけ』の方をやるうと押し込んだんです。それには三つの理由がありました。まず、日本を舞台に冒險活劇を成立させる面白さがひとつ。それから、これまでジブリで育ててきたスタッフも、それなりに熟したというが、育つてきた。それと宮さん(宮崎監督)



鈴木敏夫
すずき としお（プロデューサー）
1948年、愛知県生まれ。「アニメーション」編集長を経てスタジオジブリへ。「おもひでぽろぽろ」以降の全ジブリ作品のプロデューサーを務める。

の状況。こうした力技で撮る機会も今後は、年齢的にそう何回もないだろう、つまり宮さんにとって最後のチャンスかもしれないということです。それに付け加えるなら、こういう作品を撮るとなるとお金が掛かることは分かっていたけど、今だったらお金を出してくれる人がいっぱいいるかもしれない。しかし仮に、違う作品を作り、それが興行的に失敗したら次は誰もお金も出してくれなくなります。そういう四つくらの気運が合わさって、「やろう」ということになったんです。

それで最初の質問に戻りますけど、理由は様々なあるんですが、宮さんらしい映画になったと思ってます。

——その『もののけ』と同時に挙がっていたもうひとつの企画というのには？

『毛虫のボロ』という、ある毛虫が自分の居る街路樹から隣の街路樹に移っていく過程を描く冒険活劇です。いまは、むしろ『もののけ』の次にやるべき作品なんじゃないかなと思ってます。

——この作品を最後に宮崎さんは監督を引退するとおっしゃってますが？

一口に監督と言ってもそのスタイルは色々あります。

宮さんが一本の映画を作る場合は、原案を作り、絵コンテを書き、レイアウト

『毛虫のボロ』という、ある毛虫が自分の居る街路樹から隣の街路樹に移っていく過程を描く冒険活劇です。いまはむしろ『もののけ』の次にやるべき作品なんじゃないかなと思ってます。

——この作品を最後に宮崎さんは監督を引退するとおっしゃってますが？

一口に監督と言ってもそのスタイルは色々あります。

宮さんが一本の映画を作る場合は、原案を作り、絵コンテを書き、レイアウトや作画のチェックをするまでの全作業に関わっている。彼はそこまでやる。ことが監督だと思っているんですよ。ところがその作画チェックの作業が、体力的につらくなってきている。

もともとアニメイトという言葉が命を吹き込むという意味ですから、作画チエックをしてその修正することは、そのキャラクターに命を吹き込む大切な

手というものは、常に引退をかけてやるものでしょう。「これがダメなら引退だ」という風に。

——デイズニーとの提携は今後どうなりますか？ アメリカでは首が飛んだりするシーンは、問題になるのではないですか？

自分も残酷なシーンが問題になるか、とは思ってんです。実は予告編からああいうシーンを入れてたのも二つの意図がありました。一つはジブリのこれまでの作品とは違うという合図。もう一つはディズニーの人に、「宣戦布告しようという」(笑)。

ディズニによる配給では今のところノークット上映の予定です。ディズニにはウォルト・ディズニの他にミラ・マックス等いくつかのブランドがあり、『もののけ』はウォルト・ディズニでは基準に引つ掛かってしましますが、その他にある内どれかで配給されることになることは決まっています。それ以上は七月に字幕版をアメリカで観てもらうまで分かりません。

——最後に今後のジブリの予定を。
既に次回作の準備に入っています。
高畑勲監督で企画が決定しました。内
容については申し訳ありませんけどまだ公表できませんが、準備が終わった
ら発表します。

宮さんも今後のジブリの事に関心がな
いというわけにはいきませんが、高
畑さんで次回作をやるという話で、私
も宮さんといういろいろ相談しました。宮
さんもこの企画に大賛成しています。

どうぶつ宝島

1971年3月20日 東映系公開 78分 東映カラー・カラー・ビデオ構成・原画 宮崎駿 製作 東映動画 大川博 企画 山梨稔 伊藤企画 飯島敬 原作 ロバート・L・ステーション 脚本 飯島敬・池田宏 作画監督 森重二 美術監督 土田勇 アニメ構成 宮崎駿 原画 小田部羊一 宮崎駿・奥山玲子・菊池貞雄・小田克己・大田実美・金山道弘・阿部隆・木野連 役の場茂夫・角田敏一・彦根範夫・香西隆夫・大塚康生(手伝い) 動画 生野徹太・山下恭子・堀合昇・笠井晴子・飯田「金へんに圭」一・円山智・富永勤・金山圭子・長谷川玲子・斎藤瑛子・坂野勝子・森英樹・松原明徳・田村真也・黒沢隆夫・草間真之介・小林敏明・篠原征子・坂野隆雄・小川明弘・藤本芳弘・阿久津文雄・薄田嘉信・村松錦三郎・浅田清隆・堀池義治・正井融・池原昭夫・服部照夫・石山経雄・佐々木章・長沼寿美子・山田みよ 色彩設計 内川文広 背景 陶山尚治・山口俊和・海老沢一男・土屋婦美子 タイトル構成 彦根範夫 演出助手 大谷恒清・小海洋子 トレース 武田澄子・坂野園江 彩色 渡辺政江・古屋純子 特殊効果 平尾千秋・林富喜江 セログラフィ 高橋孝・福岡秀起 仕上検査 小柳正豊・新納三郎 仕上進行 平賀豊 美術進行 島武志 撮影 平尾三喜・藤橋秀行 録音 神原広巳 録音助手 池上信昭 編集 古村均 編集助手 八木大康行 音響効果 大平紀義 記録 録音の場時代 製作進行 吉岡修 [声の出演] 山崎 松島あゆり キャッシュ 天地雄二 シルバー 小池朝雄 オート 富田耕生 オッサン 高木均 スパイダー 田村錦人 グラン 増山江威子



アリババと40匹の盗賊

1971年7月18日 東映系公開 55分 ワイド イーストマン・カラー 原画 宮崎駿 製作 東映動画 大川博 企画 高橋孝・茂呂清一・旗野義文 脚本 山元謙久 作画監督 大工原寛 美術監督 横井三郎 原画 小田部羊一 宮崎駿・奥山玲子・池田宏・小田克己・金山道弘・阿部隆・木野連 役の場茂夫・角田敏一・森英樹・森重二 動画 生野徹太・山下恭子・大田実美・堀合昇・笠井晴子・飯田金圭一・富永勤・金山圭子・長谷川玲子・斎藤瑛子・坂野勝子・松原明徳・田村真也・黒沢隆夫・草間真之介・小林敏明・篠原征子・坂野隆雄・小川明弘・藤本芳弘・阿久津文雄・薄田嘉信・浅田清隆・堀池義治・村松錦三郎・正井融・池原昭夫・服部照夫・浅田清隆・石山経雄・佐々木章・長沼寿美子・山田みよ 色彩設計 内川文広 背景 櫻橋勝義・山口俊和・城戸求・原田謙一 演出助手 笠井由樹・浦上昭人 トレース 入江三帆子 谷口恭子 彩色 永方太郎・福岡秀起 特殊効果 平尾千秋・林富喜江 セログラフィ 永方太郎・福岡秀起 仕上検査 小柳正豊・新納三郎 撮影 井出昭一・町田賢樹 録音 波多野 録音助手 高橋拓夫 編集 千蔵豊・花井正明 音響効果 大平紀義 記録 高橋七喜子 演出助手 笠井由樹・浦上昭人 [声の出演] ハッコ 大山のぶ代 カシラ 浦田順平 アリババ 大塚周夫 ドラゴ 内海賢二 ココ 納谷信朗 ランプの魔物 富田耕生 警察署長 田の中野

TV さるとびエッちゃん

1971年10月4日〜72年3月27日(全26話) NET系放映 カラー 製作 東映動画・NET 製作担当 原 原作 石森章太郎(「少女フレンド」)なかしよ「たのしい幼稚園」(「ディズニーランド」連載) 企画 宮崎慎一(NET)・旗野義文 脚本 山崎忠昭・辻真良 宮室俊一・押川国秋・城山昇 演出 芹川有吾・勝田稔男・高見義雄・明比正行・池田宏・金子充洋・岡崎誠・久岡敏史・大谷恒清・山本寛巳・佐々木勝利 作画監督 高橋信也・小暮輝夫・奥樹凡人・古沢日出夫・細田晴雄・香西隆男・落合正宗 作画 上村梨男・田村晴子・山口賢裕・小坂由美・大賀信夫・今沢恵子・永本龍博・桑山邦雄・田島千代子・香西隆男・堀本貴男・島田和義・小暮輝夫・落合正宗・江藤文男・島田忠也・鈴木幸雄・新川信二・奥山玲子・菊池貞雄・小田部羊一 宮崎駿 ほか 美術 土田勇・内川文広・伊藤政洋・横井三郎・辻直直・山崎稔・伊藤英治 撮影 武田寛治 編集 古村均ほか 録音 神原広巳ほか [声の出演] エッちゃん 野村道子 ミコ 川中松子 フク 永井一郎 太平 野島静江 クリム 藤沢志子 大山 田中亮一 白井先生 中村恵子

TV 準備作業ののみ 長靴下のピビ / 世界一強い女の子(仮題)

1971年 制作準備作業のみ イメージボード 宮崎駿 演出 高畑勲(予定) 制作 小田部羊一(ほか)(予定) 制作 Aプロダクション 原作 アズル・ロンド・グレン

TV パン三三

1971年10月24日〜72年3月26日(全23話) NTV によるテレビ系放映 カラー 演出修正(6-9・12話) 共同演出(7・8・10・11・13〜最終話) 高畑勲・宮崎駿 制作 ぷりんとテレビ・東京ムービー 制作協力 Aプロダクション 原作 モンキー・パンチ(「週刊漫画アクション」連載) 脚本 山崎忠昭・大和屋基・宮田豊・佐藤敏・松岡清治・鶴見辰吾・上村明・田村多津夫 演出 大沢正次(1〜6・9・12話) Aプロダクション 演出グループ 高畑勲・宮崎駿(7・8・10・11・13〜最終話) ただし、6-9・12話は大沢の演出をもとに高畑・宮崎が修正絵コンテ 高橋和美・奥田誠二・齊九洋・佐々木正広・小華和ためお・小泉三三・矢沢剛夫・岡崎誠・出崎哲・棚橋一・高橋春男・押川国秋 作画監督 大塚康生 原画 小林治・河内日出夫・近藤喜文・田中勉・本田敬行・青木雄三・木本久年・今沢哲男・岡田直弘・村田耕一・真鍋謙二・東田よし・木村圭市郎・木場田実・山口泰弘・後上義隆・小泉謙三・生野勝子ほか 美術監督 千葉秀雄(1〜6話) 伊藤雅人(7〜最終話) 背景 現代制作集団 井岡雅宏・川井基一・沼井信朗・阿部泰三郎 一瀬通子ほか 撮影監督 三沢陽雄 編集 井上和夫 音楽 山下毅雄 [声の出演] ルパン三世 山田康徳 次元大 小林清志 峰不二子 二階堂有希子 銭形警部 納谷信朗 小川五右衛門 白井先生

TV用 バイロッド ユキの太陽 カラー

1972年製作・未公開 原画 宮崎駿 制作 Aプロダクション 原作 ちばてつや

TV 赤胴鈴之助

1972年4月5日〜73年3月28日(全52話) C-Xテレビ系放映 カラー テフ・ディレクター代理 高畑勲 絵コンテ(26・27話) 宮崎駿 製作 東京ムービー・フジテレビ 制作協力 Aプロダクション 原作 竹内つなよし 脚本 七城門・山崎晴哉・鈴木良武・金子裕・田村多津夫 演出 吉田茂承・岡部英二ほか コンテ 吉田茂承・高九隆・石山経雄・石黒井・小泉謙三・今沢哲男・黒田昌郎 宮崎駿ほか 作画監督 緒方大吉郎 作画監督補 小田部羊一 作画監督 小泉謙三・香西隆男・村田耕一・荒木伸吾・河内日出夫・木村圭市郎 原画 朝倉隆・生野勝子・高橋道子・川淵淳・宇田次・金田伊吹・山口泰弘・近藤喜文・青木雄三・小泉謙三・今沢哲男ほか 美

TV 魔法使いサリー

1966年12月5日〜68年12月30日(全109話) NET系放映 カラー 原画(77話 全話) 宮崎駿 製作 東映動画 企画 菅谷岩男・飯島敬・横山賢二・松本貞光・吉川一善(NET) 原作 横山光輝(「ロビン」連載) 脚本 佐藤純弥・吉野次郎・後藤藤・井石悟人・辻真良・宮室俊一ほか 作画監督 羽根章悦・奥山玲子・小田部羊一・金山道弘・竹内留吉・香西隆男・菊池貞雄・田島実・高橋信也・我妻宏ほか 作画 小田部羊一 一宮崎駿・阿部隆・吉田茂承・の場茂夫・池原昭治・生野勝太・坂野隆雄・角田敏一・相模嘉男・黒沢隆夫・石山経雄ほか 美術 山崎稔・小川礼子・遠藤重雄・沼井基一・横井三郎ほか 背景 井岡雅宏・伊藤英治ほか 仕上 松崎令子・宇塚友子 撮影 池田重好ほか 編集 古村均ほか 動画 光プロほか 音楽 小林重雄 [声の出演] サリー 平井道子 よし子 加藤みどり すみれ・ママ 向井真理子・山口京太 ババ 内海賢二 カブ 千々松幸子 三つ子 野沢雅子・朝井ゆかり ボロン 白海冬美 山辺左子 石原良ほか

太陽の王子・ホルスの大冒険

1968年7月21日 東映系公開 82分 東映スコープ フジカラー 演出 高畑勲 製作 東映動画 大川博 企画 吉田信・澤田大五郎・飯島敬 原案 構成 手塚治虫 脚本 飯島敬・白川大作 演出 白川大作 演出助手 池田宏・山本寛巳 監修 山本早苗・飯下泰治 音楽 渡辺満 作画監督 大工原寛 原画 森重二・熊川正雄・橋本大治・喜多真佐武・奥山玲子・勝井基一・金山道弘・小田部羊一・彦根範夫 動画 堀合昇・生野徹太・小林和子・勝田稔男・福信信行・斎藤智・森英樹・香西隆男・金山道弘・宮崎駿ほか 美術 鳥屋誠一・沼井基一 背景 色形設計 浦田又治 背景 千葉秀雄・片倉和子・山崎健一 作画 矢野・デザイン 児玉喬夫 考证 露谷虹児 撮影 杉山健児 吉村次郎録音 森島 録音 千蔵豊 編集 福葉郁三 記録 菅原節代 トレース 渡藤みづ子・刈屋貞子・湯沢加代子 彩色 青木孝子・関口雅子・若田佳子 特殊仕上 藤井武 仕上検査 小柳正豊 [声の出演] 日本スロウ(幼年・少年時代) 堀桐子 同(青年時代) 下秀雄 シロ(ロウの友だち) 木木間 子 カル(ロウの友だち) 北川まど コロ(野良犬の犬) 佐藤英夫 又キ太(狸) 梅津栄 キー(虎 森の悪ボス) 西村見

TV ひみつのアッコちゃん

1969年1月9日〜70年10月26日(全94話) NET系放映 カラー 演出助手 高畑勲 原画(44・61話) 宮崎駿 製作 東映動画 企画 松本貞光・横山賢二 原作 赤塚不二夫(「ロビン」連載) 脚色 安藤豊弘・三木素次ほか 鈴樹三三子・浪江志郎・雪宮俊一・辻真良ほか 演出 高見義雄・池田宏・山本寛巳・矢吹公郎・明比正行・田宮重二・岡崎ほか 演出助手 高畑勲・西谷克和・藤岡正宣 作画監督 羽根章悦・高橋信也・森利夫・奥山玲子・古沢日出夫・小泉謙三ほか 美術 横井三郎・山崎稔・遠藤重雄・浦田又治ほか 撮影 大泉裕・根根良・菅原正樹ほか 録音 石井幸夫・荒川文雄 編集 鈴木美・古村均 音楽 小海洋子 演出 賀川晴男 効果 大平紀義 作画 上村梨男 島田恒保・山口賢裕 監修 玉沢君子・小坂由美・角田敏一・渡辺政江・菊池貞雄・高畑勲也・三原重男・沢田博子・宮崎駿ほか 背景 山口俊和・海老沢一男・伊藤岩光・土屋婦美子・櫻橋勝義ほか 仕上 谷口恭子・秋ひろみ・小柳正豊・福田洋・高橋達夫・前田家子ほか 記録 池田紀子ほか [声の出演] アッコ 水田淑子 モコ 白川渥子 大將 大竹宏 少将 千々松幸子 佐藤先生 石川治 森山先生 高橋清子 カン吉 坪井章子 チョチ 丸山裕子ほか

長靴をはいた猫

1969年3月18日 東映系公開 80分 東映スコープ カラー 製作 東映動画 大川博 企画 関次郎 有賀健 渋谷幹雄 原作 ジャーナル・ペロ 原画 井上ひさし・山元謙久 ギョギス監修 中産 作画監督 森島三 美術 浦田又治・土田勇 音楽 宇野重吉 原画 大塚康生・宮崎駿・奥山玲子・小田部羊一 菊池貞雄・大田朱美・大工原寛 動画 堀合昇・吉田茂承・斎藤智・坂野隆雄・小林敏明・小川明弘・藤本芳弘・松原明徳・飯田金圭一・坂野勝子・田村真也・黒沢隆夫・浅田清隆・篠原征子・阿久津文雄・正井融・池原昭治・堀池義治・服部照夫・角田敏一・草間真之介・長沼寿美子・山田みよ 背景 内川文広・伊藤英治・牧野光成・城戸求 演出助手 及部保雄・無木登喜司 トレース 保田道世・武田澄子 セログラフィ 松本寿夫 彩色 宮本慶子・平井正子 特殊効果 平尾千秋 検査 新納三郎 調色 谷口洋平 撮影 平尾三喜・高橋洋一 録音 神原広巳 編集 千蔵豊 音響効果 大平紀義 録音 河島利子 製作進行 吉沢義典 [声の出演] ヒール 石川ヒエール 藤田淳子 ローザ姫 柳原麻里 殺し屋の首領 堂川欣也 殺し屋 水森夏子 星の首領 熊倉一雄 星の子ビ・水原洋子

空飛ぶゆうれい船

1969年7月20日公開 60分 東映スコープ フジカラー 製作 東映動画 大川博 企画 関次郎・茂呂清一・旗野義文 原作 石森章太郎(「ゴダマブス」刊「土曜原」) 脚本 辻真良・池田宏 作画監督 小田部羊一 美術 土田勇 原画 奥山玲子・菊池貞雄・金山道弘・大田朱美・森英樹・阿部隆 宮崎駿 動画 堀合昇・相模嘉男・吉田茂承・松原明徳・篠原征子・池原昭治・服部照夫・正井融・村松錦三郎・角田敏一・服部照夫・石山経雄・佐々木章・長沼寿美子・山田みよ 色彩設計 桑秀信 演出助手 奥武志・佐々木勝利 背景 伊藤英治・池田秀清・城戸求 トレース 奥西紀夫・榎本和子 彩色 中林伸一・児島博美 特殊効果 林富喜江 セログラフィ 松本寿夫 仕上検査 小柳正豊・西元敦子 調色 中込綾彦 撮影 山幸男・武田賢 録音 波多野 音響効果 大平紀義 編集 古村均 記録 録音の場時代 製作進行 吉沢義典 脚本 本松公司 [声の出演] 蒲草子 野沢雅子 黒沢隆夫 田中明夫 同夫人 堀輪長官 星見京子 ルリ子 岡田由紀子 嵐山 名古庫庫 幽霊船長 納屋信郎

TV ムーミン

1969年10月5日〜70年12月27日(全65話) C-Xテレビ系放映 カラー 原画(23話) 宮崎駿 企画 瑞穂センタープライズ 高橋茂夫 制作 作画 Aプロダクション 原作 トーベ・ヤンソン(講談社・刊) 脚本 井上ひさし 吉田喜昭・宮室俊一・松本元治ほか 演出 大隅正次郎 コンテ 富野喜喜・崎枝 吉川惣司ほか 作画監督 大塚康生 作画監督補 芝山勇 小林治 撮影 清水達正 音楽 宇野重一 美術監督 千葉秀雄 演出 田代敦巳 照明 柏原浩 [声の出演] ムーミン 岸田今日子 ババ 高木均 ママ 高村妙子 ノンノ 武藤礼子 スノーク 広川太一郎

TV ムーミン

1969年10月5日〜70年12月27日(全65話) C-Xテレビ系放映 カラー 原画(23話) 宮崎駿 企画 瑞穂センタープライズ 高橋茂夫 制作 作画 Aプロダクション 原作 トーベ・ヤンソン(講談社・刊) 脚本 井上ひさし 吉田喜昭・宮室俊一・松本元治ほか 演出 大隅正次郎 コンテ 富野喜喜・崎枝 吉川惣司ほか 作画監督 大塚康生 作画監督補 芝山勇 小林治 撮影 清水達正 音楽 宇野重一 美術監督 千葉秀雄 演出 田代敦巳 照明 柏原浩 [声の出演] ムーミン 岸田今日子 ババ 高木均 ママ 高村妙子 ノンノ 武藤礼子 スノーク 広川太一郎

Filmography

宮崎駿 フィルモグラフィ

わんわん忠臣蔵

1963年12月21日 東映系公開 81分 東映スコープ イーストマン・カラー 動画 宮崎駿 製作 東映動画 大川博 企画 吉田信・澤田大五郎・飯島敬 原案 構成 手塚治虫 脚本 飯島敬・白川大作 演出 白川大作 演出助手 池田宏・山本寛巳 監修 山本早苗・飯下泰治 音楽 渡辺満 作画監督 大工原寛 原画 森重二・熊川正雄・橋本大治・喜多真佐武・奥山玲子・勝井基一・金山道弘・小田部羊一・彦根範夫 動画 堀合昇・生野徹太・小林和子・勝田稔男・福信信行・斎藤智・森英樹・香西隆男・金山道弘・宮崎駿ほか 美術 鳥屋誠一・沼井基一 背景 色形設計 浦田又治 背景 千葉秀雄・片倉和子・山崎健一 作画 矢野・デザイン 児玉喬夫 考证 露谷虹児 撮影 杉山健児 吉村次郎録音 森島 録音 千蔵豊 編集 福葉郁三 記録 菅原節代 トレース 渡藤みづ子・刈屋貞子・湯沢加代子 彩色 青木孝子・関口雅子・若田佳子 特殊仕上 藤井武 仕上検査 小柳正豊 [声の出演] 日本スロウ(幼年・少年時代) 堀桐子 同(青年時代) 下秀雄 シロ(ロウの友だち) 木木間 子 カル(ロウの友だち) 北川まど コロ(野良犬の犬) 佐藤英夫 又キ太(狸) 梅津栄 キー(虎 森の悪ボス) 西村見

TV 狼少年ケン

1963年11月25日〜65年8月16日(全86話) NET系放映 モノクロ アドバイザー 演出(6/Cパートのみ) 14・19・24・32・38・45・51・58・65・72・80話 高畑勲 動画 宮崎駿 製作 東映動画 原案 NET・東映動画 原作 大野実夫 脚本 芹川有吾・飯島敬・押川国秋・浜田徳ほか 演出 月岡寛子 芹川有吾・黒田昌郎・池田宏・山本寛巳 矢吹公郎・高畑勲・飯下泰治ほか 編集 小林重雄・田中修・福葉郁三ほか 撮影 菅原英明 平尾三喜ほか 音楽 小林重雄 美術 児玉喬夫・沼井基一・横井三郎ほか 記録 小西達 石井幸夫 スチル 合田美 作画監督 喜多真佐武・彦根範夫・小田部羊一ほか 原画 大塚康生・吉田茂承・の場茂夫・上村梨子・中村恵子・飯田金圭一ほか 背景 千蔵豊・根橋勝義ほか ショウケイ・設計(中期以後) 月岡寛子 [声の出演] ケン 西本雄司 ポッポ 水塚洋子 チッチ 田上和枝 青木勇嗣 ボス 八家見兼児 ブラッパ 大竹宏 ジャック・キラー 内海賢二 ほか

ガリバーの宇宙旅行

1965年3月20日 東映系公開 80分 東映スコープ カラー 動画 宮崎駿 製作 東映動画 大川博 企画 小野沢実・旗野義文 脚本 関沢新一 演出 黒田昌郎 作画監督 古沢日出夫 監修 山本早苗・飯下泰司 音楽 富田勲 美術 横井三郎 原画 大塚康生 動画 竹内留吉・月岡寛子・小田克己 菊池貞雄・大田朱美・松原明徳・森重二 演出 堀池義治・堀合昇・相模嘉男・奥田圭子・長尾雅子・黒沢隆夫・坂野隆雄・薄田嘉信・倉橋孝治・笠井幸子・富永勤・坂野勝子・草間真之介・宮崎駿・村松錦三郎・竹内大二・長沼寿美子 美術 児玉喬夫 背景 杉本英一・遠藤重雄 土田勇・辻直直 演出助手 佐藤秀 山口康男 撮影 杉崎文男・林昭夫 録音 石井幸夫 編集 福葉郁三 効果 岩藤三三 記録 菅原節代 製作進行 吉沢義典 彩色 渡辺益美・中林伸子 トレース 島田恒保・小田部羊子・入江三帆子 特殊効果 山本千枝 仕上検査 佐藤章二 [声の出演] テンド子 坂本九 紫の女王 木村千代子 ガリバー博士 宮口精二 ノラ犬マック 堀桐子 人形の太佐 小沢昭一

TV 少年忍者風のフジ丸

1964年6月7日〜65年8月31日(全65話) NET系放映 モノクロ 原画(話数不明) 宮崎駿 製作 東映動画 企画 飯島敬・小沢沢実・斎藤智・宮崎慎一 原作 白土三平(「ぼくら」連載) 脚本 飯島敬・志原弘・谷井敏ほか 美術 浦田又治ほか 原画 大塚康生 小田部羊一 生野徹太 木谷梨男 宮崎駿ほか 音楽 飯部公一 動画 木野連 木村圭一 小林敏明 羽根章悦ほか 背景 山崎稔・秀秀秀ほか 撮影 吉村次郎 高橋宏園 編集 鈴木亮 録音 神原広巳 記録 菅原節代 仕上 湯沢加代子 進行 上野野夫 作画監督 橋本大治 作画 吉田大工原寛 高橋宏園 編集 鈴木亮 公設 井上雄雄 田宮武 高橋宏園 演出 白川大作 湯沢加代子 [声の出演] フジ丸 小宮山清 ポン吉 おせん 伊藤敏子 チョロ 山本喜代子 芳川和子 みどり 美香 加藤みどり 十法貴 語り手 湯浅実 ほか

TV ハッスルパンチ

1965年11月1日〜66年4月25日(全26話) NET系放映 モノクロ オープニング演出 高畑勲 原画(話数不明) 宮崎駿 製作 東映動画 原案 森やすじ(「まんが王」連載) 企画 斎藤智・旗野義文 演出 池田宏・勝田稔男・宮崎一哉・西沢信吾・白根徳雄・明比正行・矢吹公郎 監修 奥武志 真野好史・新田義夫 山本寛巳 脚本 池田宏・勝田稔男・岩井基成・林弘明・鈴木三夫・奥田恒孝・新田義夫・押川国秋・鈴木アヤほか 作画監督 斎藤智・喜多真佐武・奥山玲子・小田部羊一・芝山勇・林伸一・香西隆男ほか 原画 大塚康生 大田朱美・喜多真佐武・奥山玲子・小田部羊一 我妻宏 小泉謙三ほか 美術 千葉秀雄 背景 内川文広 下川俊海 大沼幸次ほか 編集 千蔵豊 鈴木亮ほか [声の出演] パンチ 大山のぶ代 プン 久里千寿 たち 水塚洋子 ガリ博士 八家見兼児 ヌー 神山卓三 ブラッパ 大竹宏ほか

TV レインボー戦隊ロビン

1966年4月23日〜67年3月31日(全48話) NET系放映 モノクロ 原画(34話・38話) 宮崎駿 製作 東映動画 原案 構成 スター・ゼロ(「冒険王」連載) 企画 飯島敬・小沢沢実・斎藤智・大塚克之・馬島寛 脚本 小田和彦・山中華・小沢洋・高橋満一・浜田徳・林弘明・鈴木三夫・東文太ほか 演出 芹川有吾・田宮武・真野好史・勝田稔男・林弘明・木村圭一・木田清治ほか 作画監督 岩井基成・森重二・勝田稔男・奥山玲子・小田部羊一・高橋信也・堀川正雄ほか 美術 沼井基一・山崎健一・沢村次郎・土田実 撮影 崎崎文男 小西寛治ほか 編集 鈴木亮ほか [声の出演] ロビン 星見京子 リン 野沢乃里子 ベル 中村恵子 教授 八木光生 ベンケイ 篠田節夫 ウルフ 桜井英一 ベガス 関根信昭ほか

TV 赤毛のアン

1979年1月7日～79年12月30日(全52話)

C・Xフジテレビ系放映 カラー

監督・脚本・宮崎駿

場面設定・画面構成(1～15話)/宮崎駿

製作/日本アニメーション・フジテレビ 製作/本橋浩一 演出/馬場健一・藤原和義 場面設定・画面構成/宮崎駿(1～15話)桜井美知代(16～52話) キャラクターデザイン・作画監督/近藤喜文 美術監督/井岡雅宏 撮影監督/黒木敬七 音楽/三善寛・毛利蔵人 録音監督/浦上靖夫 プロデューサー/中島順三・遠藤嘉郎 脚本/高畑勲・山根正二郎・千葉茂樹・磯村俊彦・高野丈才・横田和善・荒木芳久・橋本宏三・白石なな子 絵コンテ・池野文雄・奥田誠治・ひとみの喜幸・橋本宏三・藤原和義・馬場健一 作画/篠原征子・富沢信雄・新川信正・才田俊次・友和秀・村田耕一・岡寛・桜井美知代・後藤紀子・大島秀雄・橋本淳一・牛越和義・横山昇・保田夏代・高野丈才・木村光雄・中川しんじ・米川功真・古佐小嘉重・三重野要一・高崎勝夫・渋谷春男・古川正・加藤政弘・寺崎聖子・佐藤勝・石之和郎・飯岡真理子・菅原智男・竹本周明・森友典子・岡田由紀子 背景/西原茂男・石橋健一・阿部泰三郎・山本二三・菅原重二・横山幸博・玉利和郎・加藤嘉善・野村俊一・小松幸夫・美術助手/阿部泰三郎・山本二三 編集/瀬山武司 動画監督/前田英美 演出助手/馬場健一・藤原和義・堀見邦宏・橋本宏三 製作/日本アニメーション・フジテレビ 別所孝 監督・高畑勲 〔声の出演〕山田栄子 マハラ 北原文枝 マッシュ 機柳二 タイナ/高島雅羅 レチエ・ルンバ 麻生美代子 キルバート/井上和彦

ルパン三世 カリオストロの城

1979年12月15日 東宝系公開

100分 カラー

監督・宮崎駿

製作/藤岡豊 プロデューサー/片山哲生 原作/モッキー・パンチ(週刊漫画アンソング連載・双葉社刊) 脚本/宮崎駿・山崎晴哉 作画監督/大塚康生 美術/小林七郎 撮影/高橋広重 録音/加藤敏 編集/鶴岡光雄 原画/山根正二郎・友和秀・河内日出夫・富沢信雄・丹内司・山内昇壽郎・丸山見二・真鍋謙二・田中敦子・新川信正・青木康彦・佐野英代・大里美和子・桜井陽子・崎崎真佐美・下崎清子 動画/小野島明・島津佳子・川中幸子・柴田善美・柏田洋子・志田欣弘・熊本孝典・鈴木孝雄・小林健二・田辺厚子・小島朋子・高木美和子・堤純子・平岡久美子・塚田洋子・比留間敏之・遠藤義彦・藤村和子・難波日登志・木多重・原田俊治・望月理江子・林雅雄・吉村洋子・浜田幸子・浜崎健次・橋本三郎・垂柳重宣・オーフロダクション 背景/(小林プロダクション) 青木勝志・小松明敏・石垣芳子・小倉宏夫・大野広司・海保基三郎・水谷利春・林裕美子・工藤美由紀・藤江健二(テレコム)山本二三 撮影/(高橋プロダクション)宮内隆彦・大田勝美・高橋寛久・平山昭夫・細野正・中村喜則・斉藤佳三・鈴木木丈 仕上/(スタジオ古賀美)岡崎岡敏(シャツ)加藤紀子(イメージワーク)林直哉(スタジオタージ)塩谷典子(スタジオキリー)若谷紀親 助監督/吉田茂幸 監音/飯塚秀保 効果/東洋音響(倉橋静男)本編編集/斉藤和子 タイトル/藤井敬敏 動画検査/原恵子・島田明子 色彩設計/近藤浩子 仕上検査/山本雅世・砂川千星 録音/東北新社 現像/東洋現像所 製作担当/斎藤嘉男 製作協力/吉田力雄・柳内一彦・岩田幹宏 製作協力/テレコム・アニメーションフィルム 〔声の出演〕ルパン三世 山田康雄 次元大介/小林清志 峰不二子/増山江威子 銭形警部/納谷悟朗 石川五右門/井上真樹夫 クリス/島本須美

TV(新) ルパン三世/第145話・翼の翼アルパロス

1980年7月21日 日本テレビ系放映 カラー

脚本・絵コンテ・演出/宮崎駿

製作/東京ムービー新社 原作/モッキー・パンチ 企画/吉川斌 プロデューサー/高橋隆二・高橋光光 脚本・絵コンテ・演出/照樹勝(宮崎駿) シリーズ構成/大和屋三 文芸担当/飯岡順一 作画監督/北原健雄・丹内司 美術監督/龍池孝 美術設定/山本二三 撮影監督/小林健一・長谷川肇 録音監督/加藤敏 音楽/大野雄二 制作担当/仙石鎮彦 原画/富沢信雄・丸山見二・原恵子・堤純子・小野島明 動画/青木康彦・大里美和子・林雅子・田辺厚子・桜井陽子 色指定/近藤浩子 仕上/岡崎岡敏・豊永真一・タイルデザイン/高島秀雄 背景/張本源 撮影/野村俊・斎藤真平・金井弘 音響効果/小川幸良(宮田音響) 録音技術/飯塚秀保 編集/鶴岡光雄 動画検査/藤村和子・高橋和子 制作進行/徳永元寛 音楽/東北新社 監督/高橋隆二 現像/東京現像所 制作協力/東京ムービー テレコム・アニメーションフィルム 〔声の出演〕ルパン三世 山田康雄 次元大介/小林清志 峰不二子/増山江威子 銭形警部/納谷悟朗 石川五右門/井上真樹夫

TV(新) ルパン三世/第155話(最終話)・さらば愛しきルパンよ

1980年9月29日 日本テレビ系放映 カラー

脚本・絵コンテ・演出/宮崎駿

製作/東京ムービー新社 原作/モッキー・パンチ 企画/吉川斌 プロデューサー/高橋隆二・高橋光光 脚本・絵コンテ・演出/照樹勝(宮崎駿) シリーズ構成/大和屋三 文芸担当/飯岡順一 作画監督/北原健雄・丹内司 美術監督/龍池孝 美術設定/山本二三 松浦裕子 撮影監督/小林健一・長谷川肇 録音監督/加藤敏 音楽/大野雄二 制作担当/仙石鎮彦 原画/友和秀・山内昇壽郎・遠藤義彦・藤原征子・田中敦子・柏田洋子 動画/藤村和子・斎藤敏彦・木多重・小野島明・島津佳子・川中幸子 色指定/近藤浩子 仕上/八尋清美 タイルデザイン/高島秀雄 背景/張本源 撮影/野村俊・斎藤真平・金井弘 音響効果/小川幸良(宮田音響) 録音技術/飯塚秀保 編集/鶴岡光雄 動画検査/藤村和子・高橋和子 制作進行/川内慎二 録音/東北新社 録音/鈴木清順 現像/東京現像所 制作協力/東京ムービー テレコム・アニメーションフィルム 〔声の出演〕ルパン三世 山田康雄 次元大介/小林清志 峰不二子/増山江威子 銭形警部/納谷悟朗 石川五右門/井上真樹夫 小山田マキ/島本須美

TV(新) 鉄人28号

1980年10月3日～81年9月25日(全51話)

日本テレビ系放映 カラー

原画(手伝い)/宮崎駿

企画/吉川斌 プロデューサー/藤雄雄・赤川茂 制作担当/谷理人 文芸担当/小野田博之 脚本/藤川圭介・城山昇・荒木芳久・桜井正明・高屋敷英夫・金子裕 テーフ・ディレクター/今沢喜男 演出/絵コンテ/今沢喜男・長谷川肇 美術監督/吉田浩二 作画監督/高橋和子・小松幸夫・三上出哲・広川和之・滝沢文治ほか 作画監督/鈴木孝一 絵コンテ・デザイン/前田英・メカ修正/本橋秀之・塩一 原画/河村信造・高橋英吉・藤岡正宣・多田康之・新田敏夫ほか 美術/石塚芳一・石塚芳一・高橋英・新井隆文 編集/鶴岡光雄 高橋和子 音楽/清水靖児・マリアフ 〔声の出演〕金田正太郎 山田栄子 大塚警部/富田耕生 数島博士/金内秀吉 数島孝子/滝沢久美子 プランチ/小林修 宇宙魔王/内海賢二 グラ/戸田恵子

名探偵ホームズ(制作順・第1話)/小さな依頼人

1982年制作/テレビシリーズ第3話「小さなマサの事件!」

84年11月20日 テレビ朝日系放映 カラー

監督・脚本・絵コンテ・演出/宮崎駿

製作/東京ムービー新社・RAI・REVER 原作/コナン Doyle 製作/藤岡

おばあさん/島美弥子・沼波曜枝 テーテ/中西妙子 ロッテンマイヤー/麻生美代子

TV フランダースの犬

1975年1月5日～75年12月28日(全52話)

C・Xフジテレビ系放映 カラー

演出(15話)/高畑勲

原画(15話)/宮崎駿

製作/スイヨウ映画(前期)日本アニメーション(後期)・フジテレビ 製作/企画/スイヨウ映画(前期)・日本アニメーション(後期) 企画/リュ・デ・ラ・ラ・ラ・プロデューサー/高橋茂・中島順三・松本隆二 担当プロデューサー/中島順三 制作デスク/根来茂・松本隆二・遠藤義彦 シリーズ構成/六鹿英雄・松本功・中西隆三 脚本/吉田喜昭・加瀬高之・伊東恒久・松島昭・中西隆三・宮室俊一・佐藤道雄・高山由起子・安藤豊弘 演出/黒田昌郎 絵コンテ/黒田昌郎(柴田一)・山崎修二・奥田誠治・斧谷稔(富野喜幸)・高畑勲・横田和善・佐々木正広・西牧秀雄(水沢わたる) キャラクターデザイン/森田二 作画監督/羽根達彦・坂井俊一・岡田敬雄 作画/高橋信也・大田朱美・飯村一夫・桜井美知代・篠原征子・新川信正・富沢信雄・二村田耕一・岡本健一・米川功真・高野丈才 美術監督/伊藤主計 背景/津屋室・窪田忠雄・川本征平・工藤剛一ほか 撮影監督/黒木敬七 編集/瀬山武司・前田英美 録音監督/佐藤敏彦 〔声の出演〕ネロ 喜多道枝 アロフ/麻上洋子・桂玲子

TV 母をたずねて三千里

1976年1月4日～76年12月26日(全52話)

C・Xフジテレビ系放映 カラー

演出(監督)/高畑勲

場面設定・レイアウト/宮崎駿

製作/日本アニメーション・フジテレビ 製作/本橋浩一 原作/デ・アミーチ・ソ・オレより 脚本/深沢一夫 絵コンテ/高畑勲・黒田昌郎・奥田誠治・富野喜幸 場面設定・レイアウト/宮崎駿 美術監督/椋尾寛 キャラクターデザイン/小田部羊一 作画監督/小田部羊一・奥山玲子 撮影監督/黒木敬七 監音/中戸川次男 作画/才田俊次・丹内司・米川功真・真鍋謙二・村田耕一・岡本健一・米川功真(オーフロダクション)・前田英美・篠原征子・富沢信雄・羽根達彦・坂井俊一・古宇田文男・大島秀男・横山昇・中川しんじ・東海林武・出崎節子・河内日出夫・岡田敬雄・高沢良・戸倉健二・牛越和夫 動画・山崎ゆづり/英田英美・篠原征子・高野丈・富沢信雄・横山昇・背景/窪田忠雄・伊藤功洋・西原素男 宮本マリ子・迎潤子・石橋健一 色指定/土上検査 演出/高畑勲・小野明子 制作デスク/三上出哲 萩原亨・松浦裕子・堀川真由 現像/東洋現像所 効果/インダストリアル・サウンド・エフェクト録音スタジオ/キヌタスタジオ 演出助手/馬場健一・横田和善・黒田康生 制作デスク/遠藤義彦 制作進行/田辺宏・高砂克己・竹内孝次・久保田幹男・内敏敏・中野和明・広瀬智義 プロデューサー/中島順三・松本隆二 音楽/坂田晃一 〔声の出演〕ネロ 松尾佳子 フィオリーナ 信沢三恵子 ベッピー/永井一男 コンチエッタ/小原乃梨子 ジュリエッタ/千々松幸子 アンナ・二階堂有希子

PR映画 草原の子デングリ

1977年4月完成 20分 カラー

レイアウト(1/313秒手伝い)/宮崎駿

企画・製作/雪印乳業KK 配給/桜映画社 動画製作/シンエイ動画 原案/手塚治虫 演出/大塚康生 レイアウト/大塚康生 作画監督 原画/大塚康生 近藤喜文・松島豊夫・松島豊夫・中村英一・本木久年・青木悠三・矢沢則夫・小田部羊一 音楽/関吉芳生 文部省選定・中央児童福祉審議会推薦・優秀映画鑑賞会推薦

TV あらいぐまラスカル

1977年1月2日～77年12月25日(全52話)

C・Xフジテレビ系放映 カラー

原画(4・5・6・10・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・24・25・26・27・28話)/宮崎駿 製作/日本アニメーション・フジテレビ 製作/本橋浩一 企画/日本アニメーション 原作/スターリング・ノース(はるかなるわがスカスカ)より プロデューサー/中島順三・加藤良雄 制作デスク/遠藤義彦 脚本(フジテレビ)別所孝治 脚本/宮崎駿・佐藤嘉助・加藤聖一・太田省吾 監督/遠藤政治・斎藤博(1～29話)藤原秀(30～最終話) 絵コンテ/奥田誠治・池野文雄・大田信・高屋敷英夫・ひとみの喜幸・御厨恭輔・岡部聖二 レイアウト・作画/キャラクターデザイン/遠藤政治 作画監督/桜井美知代 作画/坂井俊一・横山昇・牛越和夫・戸倉健二・宮崎駿・小田部羊一・篠原征子・富沢信雄・坂城彦彦・中川しんじ・トラフアン・田代明子・後上義隆・石之和郎ほか 美術監督/井岡雅宏 撮影監督/黒木敬七 編集/瀬山武司・上遠野英夫 〔声の出演〕スターリング/内海敏子 タム・山内雅人 オスカ/鹿裕裕

TV 未来少年コナン

1978年4月4日～78年10月31日

(全26話) NHK放映 カラー

演出・キャラクターデザイン・メカニックデザイン・場面設定・絵コンテ(単独)＝2・16・18・19・22～26話(共＝3・4・8・12・15・17話)/宮崎駿 絵コンテ(7・9・10・13・20話)演出(10話)/高畑勲

製作/日本アニメーション・NHK 製作/本橋浩一 製作管理/高桑充企画/佐藤昭二 演出/宮崎駿・高畑勲・山根正二 脚本/小野明子 音楽/池辺晋一郎 主題歌「星地球が目覚めろ」(幸せの予感)作詞/片岡輝 作曲/池辺晋一郎 歌/鎌田直純・山路ゆづり 演奏/コンセル・ル・エニ 場面設定・キャラクターデザイン・メカニックデザイン/宮崎駿 美術監督/山本二三 撮影監督/三沢勝治 録音監督/斯波重光 動画・川崎マサ・前田英美 動画・川崎マサ・大島秀雄 仕上検査・色指定・保田道世 背景/アリイ・ロウ 川本征平・阿部泰三郎・佐藤淳二・高野正造 編集/瀬山武司・前田耕生・上遠野英夫 撮影/東京アニメーションフィルム 清水達正・金子仁・川本征夫 効果/インダストリアル・サウンド秀雄 監音/桑原邦男 録音製作/オムニクスプロモーション 録音スタジオ/シンペイ・スタジオ 現像/東洋現像所 演出助手/早川啓二 彩色/高砂芳子・中村真理 金坂孝一子・池亀貴子・浜下栄・遠藤義彦・田田千恵子・スタン・キリー 岩切朝雄・阿部順子・吉村裕子・米井芳子・山口俊夫・園井洋一・田島好一 小川紀子・鈴木孝雄・遠藤久美・泉田直子・村井悦子 制作進行/細田伸明・星出和彦・竹内孝次・内山秀二・神田清彦・黒井清文 演出助手/鈴木孝雄・高橋健一 絵コンテ・宮崎駿・高畑勲・ひとみの喜幸・早川啓二・奥田誠治・鈴木孝雄 作画/近藤喜文・川崎マサ・岡田敬雄・河内日出夫・篠原征子・新川信正・岡田敬雄・富沢信雄・大島秀雄・オーフロダクション＝村田耕一・才田俊次・真鍋謙二・山内昇壽郎・友和秀・原田俊・佐藤勝・湯川高広ほか プロデューサー/中島順三 企画・製作/日本アニメーション 原作/アグナツ・ケイ(残された人々より) 〔声の出演〕コナン/小原乃梨子 ラン/信沢三恵子 ジムニー/木下和代 おい・バネツ・ラボ博士/山内雅人 モンサー/吉田理保子 タイヌ/本村一

術監督/影山仁 美術/伊藤雅人 背景/現代制作集団・窪田忠雄・山口昭・大野昭三ほか 撮影監督/三沢勝治 撮影/清水達正ほか 〔声の出演〕鈴之助/山本圭子 さゆり/小嶋くるも 雷之進/兼本新吾 大介/桂令子 柳生一太郎 井上真樹夫 ほか

パンダコパンダ

1972年12月17日 東宝系公開

33分 カラー

原案・脚本・画面設定・原画/宮崎駿

演出/高畑勲

製作/東京ムービー 原案・脚本・画面設定・宮崎駿 作画監督/大塚康生・小田部羊一 美術監督/福田尚郎 撮影監督/清水達正

原画/宮崎駿・河内日出夫・中村英一・近藤喜文・田中勉・青木雄三・鈴木敏行・本木久年・北原健二・鈴木基司・香西隆男・小泉謙三・村田耕一・荒木伸吾・才田俊次・山口泰弘・我妻愛

動画/平田佐代・有原誠治・山田道代・福富博・春貴健二・上のおめく・大竹伸一・堀江孝男・福原兼郎・須田裕美子・千葉雅子・津和雄・本居武士・前田みのる・窪田正史・奥田和義・高橋道子・田中ひとこ・村田まり子・後上義隆・菊地紀子・中村清・鈴木孝雄・原浩治・品川弘一・森本枝・鶴谷和子・穴見弘子・坂下健二 背景/現代制作集団(伊藤雅人・千原道之・佐藤悦夫・谷博次・野崎俊昭・藤明男・五十・藤広子・喜沢久美子・本間優美子・滝池海・北川公子) 制作進行/真田芳男・熊崎智男 演出助手/向井利次 仕上監督/山浦浩子 仕上/八巻光子・山名公枝・林好美・工藤秀子・佐坂仁子・佐藤道子・池田由起・榎川美子・田村まさ子・藤井文子・小熊美子・小林久江・村中啓子・遠藤芳江・森源子・後田進子・片野孝・風間あさひ・石井田幸子・岡田富美子・寿盛秀子・青貴子・小橋真子・細内陽子・星野恵子・亀山久子・浜口幸子・村井定子 音楽/佐藤敏彦 録音/田代敦巳 編集/井上和夫

〔声の出演〕ミミ子 杉山佳寿子 パンダ/飯倉一雄 バちゃん/太田淑子 おまわりさん/山田康雄 おおちゃん/瀬能礼子 先生/峰崎研

パンダコパンダ/雨ふりサーカスの巻

1973年3月17日 東宝系公開 38分 カラー

脚本・美術設定・画面構成/宮崎駿

演出/高畑勲

製作/東京ムービー 脚本・美術設定・画面構成/宮崎駿 作画監督/大塚康生・小田部羊一 美術監督/小林七郎 撮影監督/清水達正 原画/大塚康生・小田部羊一・宮崎駿・河内日出夫・中村英一・近藤喜文・竹内留喜・青木雄三・本田雄行・本木久年・村田耕一・村田俊次・矢沢則夫・穴見弘子・大竹伸一・堀江孝男・福原兼郎・須田裕美子・千葉雅子・窪田六郎・大島聡・田中ひとこ・村田まり子・堀川一徳・堀川美智子 美術/小田プロダクション(中野一平・平川栄治・清水利幸・清水一利・窪田順一・熊谷賢二) 制作進行/真田芳男・村上寛 演出助手/熊崎智男 仕上監督/山浦浩子 仕上/亀山久子・浜口恭子・村井貞子・藤井文子・田村まさ子・中川恭子・小林久江・村中啓子・遠藤芳江・小熊美子・八巻光子・片野孝・風間あさひ・村田マコ子・野中幸子・保田道世・小橋真子・細内陽子・岡田富美子・星野恵子 音楽/佐藤敏彦 録音/田代敦巳 編集/井上和夫

TV 荒野の少年イサム

1973年4月4日～74年3月27日(全52話)

C・Xフジテレビ系放映 カラー

絵コンテ(15・18話)演出(15話)/高畑勲

原画(15話)/宮崎駿

製作/東京ムービー・フジテレビ 制作協力/アフロダクション・映音・東京現像所 原作/山田惣治・川崎のぼる(『週刊少年サンデー』連載) 脚本/鈴木よしなけ・山崎晴哉・伊藤恒久・井井土・金子裕・徳丸正夫 テーフ・ディレクター/吉田茂幸 ディレクター/御厨恭輔・新田義夫・小泉謙三 コンテ・波島正・岡部英二・黒田昌郎・吉川惣司・今沢喜男・高橋和子・小泉謙三・石森勇・中村真一・上置健之 作画監督/椋尾寛 作画監督/香西隆男・小泉謙三・村田耕一・荒木伸吾・山口泰弘・我妻愛 河内日出夫・木村圭市郎 原画/今沢喜男・香西隆男・小泉謙三・才田俊次・村田耕一・百瀬真行・荒木伸吾・青木雄三ほか 美術監督/影山仁 美術/現代制作集団・伊藤雅人・千葉康之ほか 撮影監督/三沢勝治 編集/越野寛子 音楽/渡辺岳夫 〔声の出演〕イサム 榎谷明 ウینگン/加藤修 レオ/家弓家正 N・レータ/桑原毅 ほか

TV 侍ジャイアンツ

1973年10月7日～74年9月29日(全52話)

NET・よみうりテレビ系放映 カラー

原画(1話)/宮崎駿

製作/東京ムービー・よみうりテレビ 企画/佐野寿七 原作/根原一騎・井上ユオ 脚本/七條門・出崎哲・松岡清治・谷本公・安藤豊弘・金子裕・山崎晴哉 作画監督/大塚康生 演出/長沢忠夫 コンテ/出崎統・出崎哲・富野喜幸ほか 原画/河内日出夫・青木雄三・山田道代・中村英一(アフロダクション)・我妻愛(スタジオジュニオ)ほか 美術監督/小林七郎 背景/男鹿和雄・清水・中野一朗・平川栄治(小林プロダクション)ほか 撮影監督/若菜肇夫・大和田幸男 編集/中津達治・井上和夫 録音監督/千葉耕生 音響効果/小田部三 協力/『週刊少年ジャンプ』・東京読売巨人軍 〔声の出演〕番場猛 富山敬 八幡太郎平 納谷六朗 読売/武藤礼子 月岡/井上真樹夫 川上/西田昭市 長崎/山田俊司 王/石森達幸ユキ/吉田理保子 ほか

TV アルプスの少女ハイジ

1974年1月6日～74年12月29日(全52話) C・Xフジテレビ系放映 カラー

演出/高畑勲

場面設定・画面構成/宮崎駿

製作/機應エンタープライズ・フジテレビ 企画/機應エンタープライズ 原作/ヨハン・スビド 脚本・佐々木守・大川久喜 吉田義昭 絵コンテ/富野喜幸・山崎修二・奥田誠治・黒田昌郎・斉藤嘉・牛越和夫・横田和善・早川啓二・池田茂雄 シリーズ構成/松本功(4～52話) 場面設定・画面構成/宮崎駿 キャラクターデザイン・作画監督/小田部羊一 美術監督/井岡雅宏 撮影監督/黒木敬七(黒木敬) 録音監督/浦上靖夫 監音/中戸川次男 効果/石田秀彦 協力/東京スタジオセンター(1～21話)木下スタンジ(22～52話)あんたんで(全話) 作画/才田俊次・米川功真・真鍋謙二・村田耕一(オーフロダクション)・桜井美知代・坂井俊一・岡田敬雄・羽根達彦・篠原征子・前田英美・水田めい 背景/西芳郎・西原素男・石橋健一(スタジオアーク)椋尾寛・窪田忠雄(メカオスタジオ)川本征平(アリイ・ロウ)・窪田和美・香西雅博・菊地紀夫・根間八郎 彩画/スタジオロビン 撮影/トランス・アーツ・熊澤博(1・4・7～52話)萩原亨(5～52話)渡辺道之(5・6話) 編集/瀬山武司 高橋「次」男 現像/東洋現像所 仕上検査/山小朋子 制作主任/松本隆二 演出助手/早川啓二・横田和善・小橋常久 制作進行/岡岡義和・高砂克己・遠藤嘉彦・藤原孝・梅原勝・平本治夫 担当プロデューサー/中島順三 制作デスク/佐藤昭二・加藤良雄 プロデューサー/高橋茂人 〔声の出演〕ハイジ/杉山佳寿子 アルムおんじ/宮内幸平 ベーター/小原乃梨子 クラ/吉田理保子 フリギット/坪井章子・近藤高子 ベーターの

純夫・浜野邦子（スタジオ・ギャロップ）荒野真理子・岡部和美・斉藤利子（スタジオ9魔）手島勇人・星勲 美術／野崎俊郎・山本三三 背景・小間睦夫・木下和宏・吉崎正樹・久村佳津・飯島久美子・太田清美・石川山子 ハーモニイ処理・高屋法正 特殊効果／岡部剛・寺岡伸治 色指定・保田道世 仕上・佐藤英 上・水間千春・小川典子・永瀬浩美・石井恵美子・鍋倉孝子・酒井由紀子・島田久美・阪本文也・見田竜介・仲田ひろみ・柳沢和枝・水原恵子・宮下真由美・高砂千子 仕上協力（スタジオキリ）岩切紀雄・西谷浩子・内藤幸江・佐藤純子・高見ふさ子・夏井正子・土世香一郎・中田信子・青島敬高・高橋直美・西山美代子・町井春美（スタジオファンタジア）飯塚智久・永井留美子・堀上知子・新地裕子・柳沢真里子・浅野敏子（フロダクション）横山浩子・本田由美子・田口美恵子・村野綾子・下畑千子・小松良江・倉間裕子・風間洋子（スタジオO2）磯崎昭彦・青島弘子・増田奈緒美・篠田十祐・細田明美・平賀恵子（グループJ）大橋賢子・鈴木久美子・須藤裕子・袖山みか子・村上芳枝・佐藤新之介（スタジオ雲雀）成田賢二・秋山季映・荒川典子・加藤文江・鈴木洋子（スタジオ古留美）完古幸隆・山形勝俊 撮影／（高橋プロダクション）高橋宏国・白神幸弘 小村武男・笠間いずみ・豊永安義・福島敏行・石塚敬久・宮島幸男・松壽泰三・安原吉良・野口肇 タイトル 高島アトリエ 編集・潮山武司・並原宏宏 整音・井上秀司 音響効果（E&Mプランニングセンター）佐藤一雄・小野宏典 演出助手・飯田つとむ・木村哲・須藤典彦 制作デスク・押切直也 制作進行・古里尚丈・水原浩和・原俊嗣・熱海正志・武藤康 宣伝プロモーター・徳山雅也 音楽制作・三浦光紀 株式会社徳間ジャパン 音響制作・オムニバスプロモーション 録音スタジオ／東京テレビセンター 現像（IMAGICA 制作／スタジオジブリ）原徹 プロデューサー・高畑勲 監督・宮崎駿

【声の出演】バズ／ 田中真弓 シータ／横沢啓子 ドーラ／初井言葉 ムスカ／寺田農 ボムい／常田富士夫 將軍／永井一郎 親方／糸博 おかみ／鮎尾真知子

実写 文化記録映画・柳川堀割物語

1987年4月 二馬力自主製作・自主公開 165分 カラー
製作／二馬力 製作／宮崎駿 脚本・監督・高畑勲 撮影・高橋慎二 監督補・宮野隆博 監修・脚本協力・広松伝 アニメーション原画／田中敦子・二本真希子 美術・山本三三 色指定・保田道世 ナレーション・加賀美幸子（NHK）・国井雅比古（NHK） テーマ音楽・岡宮芳生「松島音頭」フェリヨヨメ・日本音楽集団（リニョラカルシ） プロモーター／久保道
第42回（87年度）毎日映画コンクール 文化記録映画賞 優秀映画鑑賞会推薦 日本ペンクラブ推薦 全国高等学校視覚教育研究協議会推薦

とんりのトロロ

1988年4月16日東京系公開
（供映「水星の墓」） 88分
カードルビー・ステレオ
原作・脚本・監督・宮崎駿
製作・徳間書店 製作／徳間康快 企画／山下辰巳・尾形英夫 原作／佐藤好春 美術／男鹿和雄 音楽／久石譲 歌／さんば 作詞／中川季枝子「とんりのトロロ」作詞／宮崎駿 作・編曲／久石譲 歌唱／井上あずみ 原画／丹中明子・大塚伸治・篠原征子・遠藤正男・河口俊夫・田中誠・金田伊功・近藤勝也・二本真希子・山川浩臣・田川英子 背景・松岡聡・野崎俊郎・太田清美・吉崎正樹・武藤淳子・菅原紀代子 仕上・保田道世 撮影／井口久男 編集・潮山武司 動画チェック・立木康子・館野和枝 色指定・水田信子 仕上検査・本橋政江 録音演出・新渡波重子 調整・井上尚子 効果・佐藤一雄 制作担当／田中孝子 制作デスク・水原浩勝・川端俊之 演出助手・遠藤徹哉 原画協力／マッドハウス・新川信正・岡村章・工藤正明 仕上検査・立山照代・成田賢二・中村美和子 特殊効果／谷藤晃児 動画監理・板野方子・コヤマ・横田喜代子・田中立子・水谷貴代・椎名律子・諸橋伸司・大谷久美子・松井理子・服部圭一・遠藤ゆかり・岡崎和孝・手島昌子・岩柳恵美子・宮崎なつき・前田由加里・竹崎尚子・岡部和美・新留理恵・岡田正和・山縣聖紀・日暮春子・渡辺恵子・福富和子スタジオファンタジア 吉田肇・北村直樹・長野順一・山本剛・大田正之 アニメロクロ・浦田由加里・石井明子・伊藤広治・川村忠輝・ラコプロダクション 仕上／スタジオキリ 岩切紀雄・西牧道子・高橋直美・渡辺信子・渡部真由美・大出美智子・森沢千代美・吉田久子・山村及利子・大川直子・工藤吉子・高木夕紀・原田徳子・横田ひと子・米井アツシ・高橋孝子・岡田裕一・岡田代子・山根文・田中初江・太田美智子・安達順一・高野洋子・村田佳子 スタジオアスピア 京都由紀・朝日朋子・堀洋美・沢内順美・鈴木怜子・渋谷礼子 光谷博思 スタジオソニール 重喜会 スタジオバース スタジオ雲雀 協賛プロダクション／グループJ トランザーツ 背景・小林プロダクション 木村真二・白石祐・松室剛・大塚伸治・田中卓平 アリエーガール 金子英夫・田村恵子 山川晃・伊奈淳子・松浦裕子 撮影／スタジオコスモス 黒田洋一・池上元秋・原原勝則・鈴木典子・大藤晋三・佐伯浩・池谷和美・野口博志・伊藤寛・難波亮子・杉山知子・鈴木克次・池上伸治 制作進行／伊藤裕之・鈴木高明 編集助手／安立治 鈴木高明 アリエーガール 仕上技術協力／城西テュブロー・村尾守 制作／徳間書店アニメーション編集部 効果助手・小野弘典 台詞監理・佐田章良 録音演出助手・浅梨なおこ 録音スタジオ／住谷美・福島弘治 大谷六良 録音制作／オムニバスプロモーション 音楽制作／三浦光紀・渡辺隆史・株式会社徳間ジャパン 録音スタジオ／東京テレビセンター 現像・東京現像所 制作／スタジオジブリ プロデューサー／原徹 原作・脚本・監督／宮崎駿
【声の出演】バズ／ 日高のり子 メイ／坂本千夏 とさん／糸井重里 かあさ／島本須美 ぽあちん／北林谷美 トロロ／高木尚

実写 赤いカラスと幽霊船

1989年4月横浜博覧会にて公開 30分 カラー
幽霊船デザイン・宮崎駿
製作・横浜博覧会協会・NHK 偉事ゼネラルプロデューサー／阿久悠 偉事プロデューサー／太田一夫 製作／川村尚哉 監督／中中和哉 原案／阿久悠 脚本・小林弘利 音楽・奥慶一 キラクラデザイン／（赤いカラス）ジム・ハンソン・クリーチャーション ジョン・ステプンソン マイク・ウィルソン ニール・スカラン（幽霊船）宮崎駿（原案・山岸真子） 撮影・中堀正夫 照明／牛場賢二 録音／宮永賢一 音響効果／上田光生 ハイビジョン／上松広美・石井邦昭 編集・太田ともよ 記録／小川三樹子 プロデューサー／松本美産 ミニチュア製作／（赤いカラス）ジム・ハンソン・クリーチャーション ヨッポ（幽霊船）ヒルマ・モデル・クラブ（黒いカラス）ササキアキラ人形 アリエー 赤いカラス操演／ジム・ハンソン・クリーチャーション
【出演】船長／穴戸錠 タクヤ／山本耕史 エミ／戸根恵理子 ヒロシ／山口耕史 赤いカラス（声）／広川太一郎

魔女の宅急便

1989年7月29日 東映系公開 112分 カラー
ドルビー・ステレオ
プロデューサー・脚本・監督・宮崎駿
製作・徳間書店・ヤマ・運動・日本テレビ放送網 製作／徳間康快・都築幹登・高木盛久 企画／山下辰巳・尾形英夫・瀬藤祝 原作／角野栄子（福音館書店刊） 音楽・久石譲 音楽演出・高畑勲 挿入歌「ルージュの伝言」やよひに包まればならぬ歌／荒井由美（アルバムカバー） オリジナルサウンドトラック（徳間書店） 作風・大塚伸治・近藤勝也・近藤嘉文 原画／金田伊功・二本真希子・篠原征子・遠藤正明・河口俊夫・大谷敦子・小林美・川村尚哉・井上俊之・森友典子・森見真子・佐藤好春・保田道代・杉野佐枝子・渡辺浩・山川浩治・羽根章悦・浦谷千恵・関野昌弘・新留俊哉・長谷川明子 動画チェック・立木康子・館

名探偵ホームズ(制作順・第6話)／ドーバーの白い崖

1982年制作／86年8月2日東映系「天空の城ラピュタ」に併映公開 23分 テレビ朝日系放映 10話「ドーバー海峡の大海中戦!」／85年1月15日テレビ朝日系放映 カラー
絵コンテ・演出／宮崎駿
製作／東京ムービー新社・RAI・REVER 原作／コナンドイル 製作／藤岡豊 ルチア・スカッファ プロデューサー・高橋美光 オリジナル・アイデア／マルコ・バロント グラフック・デザイン／ジミー・バロント 監督／御厨恭輔 脚本・片羽須重 シリウス構成・山崎敬之・島崎真吾 美術監督／影山仁撮影監督／若菜章夫 音楽監督／鈴木清司 録音監督／伊達康徳 編集・掛須秀一 制作担当／水沼健二・木村健吾 作画監督／友和秀男 原画／田中敦子・丸山晃一・桜井隆子・遠藤正明・篠原征子・二本真希子 動画・土岐孝志・小野昌則・森川聡子・野口寛明・片山一良・下崎ジュン 色指定・山本雅世 彩色（IMスタジオ・ホヤキ）松崎孝子・大木里江子・福岡安子・安河内由紀子 美術／（現代制作会館）千葉康之・牧野輝彦・脇猛志・加藤良恵 撮影・杉村重郎・松光弘明・羽山泰功・小堤勝哉・池端隆史・坂田美保 音楽・羽田健太郎 音響効果・東洋音響 録音技術／丹波晴道 タイトルデザイン・高島アトリエ 制作進行／小笠忠孝 録音スタジオ／東北新社 現像所／東洋現像所 制作協力／テレコム・アニメーションフィルム 絵コンテ・演出／宮崎駿

TV 怪傑ゾロ

日本未公開
原画（手伝い）／宮崎駿
1982年製作 日本未公開
製作／東京ムービー新社

SPACE ADVENTURE コブラ

1982年7月3日 東京宝塚系公開 99分 カラー
原画（手伝い）／宮崎駿
製作／東京ムービー新社 製作／藤岡豊・片山哲生 プロデューサー／池内辰夫 原作・寺沢武一（週刊少年サンデー連載） 監督・出崎統 作画監督／杉野郎太郎 脚本・寺沢武一・山崎晴哉 制作担当／池田陽一 製作デスク／徳間書店 効果監督／竹内啓雄 演出助手／大賀健二 撮影・高橋宏国 背景・鈴木孝志 美術監督／高杉七郎 美術監修補佐・男賀和雄 音楽・水谷利幸・久保富雄 作風／あんたの、大塚伸治・大塚伸治・坂田信子・福島敦子・森本晃司・大森英敏 アウト・大真丈子 テレコム・アニメーションフィルム 浦谷千恵・小山田佳子・二本真希子 マシクハス清水千恵・小和田良博 スタジオルック なむちやうし 荒木プロダクション 荒木新吾・野坂美智 サンリオ 湯浅洋子 ドビー コクピット 虫プロダクション 中村プロダクション 中村プロダクション（ほか 高橋・鶴淵九寿【声の出演】コブラ／松崎ひろし レディ・崩原良子 ジェーン・中村晃子

リトル・モモ

1983年準備作業
準備作業（監督予定）／高畑勲
準備作業（場面設計担当）／宮崎駿
製作／東京ムービー新社 制作／テレコム・アニメーションフィルム
※スタッフ改編の後、「モモ」が改題されて89年7月15日に日本公開。

風の谷のナウシカ

1984年3月11日 東映系公開 116分 カラー
プロデューサー／高畑勲
原作・脚本・監督・絵コンテ・宮崎駿
製作／徳間書店・朝日放送 製作／徳間康快・近藤道生 企画／「風の谷のナウシカ」制作委員会 山下辰巳・奥本美子・尾形英夫・森江大蔵 原作・脚本・宮崎駿（徳間書店「月刊アニメーション」連載） 監督／小松原一男 美術監督／中村光毅 音楽／久石譲 音響監督・新渡波重子 録音監督・丹中明子・丹中初江・庵野秀一・柳沢真由美・鍋島修・賀川寛一・吉田忠勝・才田俊次・小林一幸・福田忠一・高坂希太郎・渡部高志・池田淳子・羽根章悦・富山正治・高野登・林真樹・小田部羊一 原画補・吉田正宏・大久保康徳 動画チェック／尾沢正志・平塚英雄 動画・佐々木よし子・高橋孝子・田口裕美子・青島喜代子・水谷貴代子・矢野順子・渡部由加里・坂浦浩一・飯田馬之介・坂元大子・長井和久・中村美子・谷沢史子・横坂重・前田真宏・多田孝子・藤原泰盛・近藤方子・池田和雄 動画協力／オープロダクション・スタジオほつこ・早間アトム・またプロ・AGU・動画工業・スタジオ・スタジオ501・スタジオイン・ランド・マルパロ 背景・木下和宏・野崎俊郎・吉崎正樹・西村くに子・海老沢一男・スタジオビック デザインオフィス・カマニ 三浦智・崎本孝夫・岡崎得江・杉山裕子・岡田和夫・下野貴美子・今村友二・下野哲人・富樫健子・村井弘子・千葉薫・高波美好 ハーモニイ処理・高屋法正 彩色・保田道世・鈴木雅男 仕上検査・萩原雅美 仕上・近江妙子・石井恵美子・古谷由美・菅野友か子・長瀬浩美・水間千春・山内真紀子・吉田政代・清水理智子・小室智弘 仕上協力／イージーワードプロ・スタジオジブリ・ホクサイ・はたはたふる・新生物・道民社・スタジオ2001・スタジオ雲雀・スタジオジブリ・ヤマトプロ 撮影／白神幸始・善行勝行・清水泰宏・杉浦清 撮影協力・高橋プロダクション・宮内征雄・平山昭夫・小林賢一・アニメレックス・スタジオ35 タイトル／高島アトリエ 編集・木田伴子・金子尚樹・酒井正次 監音／桑原勝男 効果／大平紀哉・佐藤一雄 演出助手・柳沢隆・片山一良 制作担当・尾沢正志 制作デスク・鈴木重隆 制作進行・押切直也・神戸守・島崎奈々子 宣伝プロデューサー・徳山雅也 音響制作／オムニバスプロモーション 録音スタジオ／新坂スタジオ 制作／トップグラフィック 配給／東映株式会社 制作・原案・プロデューサー／高畑勲 監督・宮崎駿
【声の出演】ナウシカ／島本須美 ジル／辻村真人 ダイバ／京田尚子 ユバ／納谷信樹 ミ／永井一郎 ギル／宮内幸平 キック／八奈見乗児

天空の城ラピュタ

1986年8月2日 東映系公開 124分 カラー
プロデューサー／高畑勲
原作・脚本・監督・絵コンテ・宮崎駿
製作／徳間書店 製作／徳間康快 企画／山下辰巳・尾形英夫 原作・脚本・宮崎駿（徳間書店「月刊アニメーション」連載） 音楽／久石譲 挿入歌（「歌の谷」作詞／宮崎駿） 作曲／久石譲 歌／井上あず美（徳間ジャパン） 動画監督／丹中明子 原案・金田伊功 原画／篠原征子・遠藤正明・二本真希子・小林一幸・賀川寛一・前田真宏・大塚伸治・河口俊夫・近藤勝也・友和秀男・桜井美知代・森友典子・大谷敦子・福田忠一・川崎博樹・高坂希太郎・名倉博樹・鍋島修・江村豊秋 動画チェック／尾沢正志・立木康子 動画／小林研二・平田美子・栗美哉・高崎由恵・服部圭一・吉野貴子・村田俊治・茂林英哉・奥誠子・竹葉直子・上田和生・森安英子・本持貴夫・中野孝子・諸橋伸司・長井和久・山川浩治・新屋真智子・板野方子・コマヤ・金子司・片山雄一 動画協力／（動画工房）神原よし子・成田達司・鈴木典子・石黒嘉志・松下弥生 牧野昭啓介（水谷貴代・河内由美・福士多鶴子・田田照（スタジオO2）浅見健郎・角田孝子・南野千・高杉七郎・森田徹（オープロダクション）永井恵子・加藤由子・栗田健（早間アトム）佐藤佳子・山口明子・重田哲（進路プロダクション）日暮春子・関明美・田中立子・山室直徳・江原仁（スタジオファンタジア）手島昌子・高橋真男・大谷久美子・岩柳恵美子・京都（ビジュアル 80）成海厚子・渡辺

豊 ルチア・スカッファ プロデューサー・高橋美光 オリジナル・アイデア／マルコ・バロント グラフック・デザイン／ジミー・バロント 監督／宮崎駿 シリウス構成・山崎敬之・島崎真吾 美術監督／山本三三 撮影監督・高橋宏国 音楽監督／鈴木清司 録音監督／伊達康徳 編集・潮山武司 制作担当／竹内孝次 作画監督／近藤喜文 原画／友和秀男・丹中明子・富沢信雄・田中敦子・丸山晃一・篠原征子 動画／富沢恵子・色指定・近藤初美・榎田均・河内明子・森川聡子 色指定・近藤浩子 彩色（IMスタジオ・ホヤキ）山崎敬之・山崎敬之・久村佳津・小間睦夫・太田清美 撮影・宮内征雄・細野正一・平山昭夫・安斎燐隆・大田勝美・小林武男 音楽・羽田健太郎 運曲・合田圭 主題歌「天空からこぼれたSTORY」作詞／三浦浩子 作曲／佐藤康・福井敏「テムズ河のDANCE」作詞／三浦浩子 作曲／山本三三 編曲・福井敏歌・タカ・カーボ 音響効果・東洋音響 録音技術／丹波晴道 タイトルデザイン／高島アトリエ 制作進行／笹原克彦 録音スタジオ／東北新社 現像所／東洋現像所 制作協力／テレコム・アニメーションフィルム 絵コンテ・演出／宮崎駿 製作／東京ムービー新社・RAI・REVER
【声の出演】ホームズ／広川太一郎 ワトソン／富田耕生 ハドソン夫人／麻上洋子 モリアーティ教授・大塚周夫

名探偵ホームズ(制作順・第2話)／青い紅玉

1982年制作／84年3月11日 東映系「風の谷のナウシカ」に併映公開 テレビ朝日系第5話「青い紅玉」／84年12月4日 テレビ朝日系放映 カラー
監督・絵コンテ・タイトル／宮崎駿
製作／東京ムービー新社・RAI オリジナル・アイデア グラフック・デザイン／マルコ・バロント ジミー・バロント 脚本・片羽須重 キラクラデザイン／近藤喜文 作画監督・近藤喜文 美術監督／山本三三 撮影監督・高橋宏国 録音監督・新渡波重子 編集・潮山武司 原画／友和秀男・篠原征子・田中敦子・山内昇孝子・丸山晃一・道旗美香・桜井隆子・遠藤正明・二本真希子 色彩設計／近藤浩子・山本智子 動画検査／原恵子・小林弥生 背景／小間睦夫・松浦裕子・久村佳津・太田清美 動画・平間久美子・林雅子・堤純子・浦谷千恵・立木康子・小野昌則・小山田佳子・宮崎なつき・八崎健二・榎田均・河内明子・森川聡子・野口寛明・佐々木昇・篠原征子・藤村和子・佐々木真由美・原田俊俊・猪俣伸司・吉野高志・下崎ジュン・片山一良・宇都宮賢・栗原達 仕上／近藤初美・橋本直子（スタジオ・キリ） 岩切紀雄・吉川真一（スタジオ古留美） 岡島國哉・豊永真一 撮影・高橋プロダクション・宮内征雄・細野正一・平山昭夫・安斎燐隆・大田勝美・小林武男 演出補・富沢信雄 演出助手・片羽須重 監音／桑原勝男 効果・依田安文 編集助手／笠原義典・タトル・宮崎駿 製作担当・中村孝子 制作デスク・土岐友二 制作進行・中村孝子 制作協力／テレコム・アニメーションフィルム 録音スタジオ／新坂スタジオ 現像所／東洋現像所 協力／徳間書店 監督／宮崎駿 製作／藤岡豊 ルチア・スカッファ プロデューサー・高橋美光
【声の出演】ホームズ／栗田俊彦 ワトソン／京田耕生 エリノバ夫人／信沢三恵子 モリアーティ教授・大塚周夫 トボ／野村雅生 スマリー／二又一成 ポル／田中真弓
【声の出演】ホームズ／広川太一郎 ワトソン／富田耕生 ハドソン夫人／麻上洋子 モリアーティ教授・大塚周夫 トボ／増岡弘 スマリー／千田光男 ポル／田中真弓

名探偵ホームズ(制作順・第3話)／海底の財宝

1982年制作／84年3月11日 東映系「風の谷のナウシカ」に併映公開 テレビ朝日系第9話「海底の財宝」／85年1月5日 テレビ朝日系放映 カラー
監督・絵コンテ・タイトル／宮崎駿
製作／東京ムービー新社・RAI オリジナル・アイデア グラフック・デザイン／マルコ・バロント ジミー・バロント 脚本・片羽須重 キラクラデザイン／近藤喜文 作画監督・近藤喜文 美術監督／山本三三 撮影監督・高橋宏国 録音監督・新渡波重子 編集・潮山武司 原画／友和秀男・篠原征子・遠藤義章・堤純子・浦谷千恵 色彩設計／近藤浩子・山本智子 動画検査／原恵子・小林弥生 背景／小間睦夫・松浦裕子・久村佳津・太田清美 動画・平間久美子・林雅子・立木康子・小野昌則・小山田佳子・宮崎なつき・八崎健二・榎田均・河内明子・森川聡子・野口寛明・佐々木昇・篠原征子・藤村和子・佐々木真由美・原田俊俊・猪俣伸司・吉野高志・下崎ジュン・片山一良・宇都宮賢・栗原達 仕上／宮下真理・近藤初美・橋本直子（スタジオ・キリ） 岩切紀雄・吉川真一（スタジオ古留美） 岡島國哉・豊永真一 撮影・高橋プロダクション・宮内征雄・細野正一・平山昭夫・安斎燐隆・大田勝美・小林武男 演出補・富沢信雄 演出助手・片羽須重 監音／桑原勝男 効果・依田安文 編集助手／笠原義典 タイトル／宮崎駿 制作担当／竹内孝次 制作デスク／土岐友二 制作進行／笹原克彦 制作協力／テレコム・アニメーションフィルム 録音スタジオ／新坂スタジオ 現像所／東洋現像所 協力／徳間書店 監督／宮崎駿 製作／藤岡豊 ルチア・スカッファ

名探偵ホームズ(制作順・第4話)／ソレバン金貨の行方

1982年制作／テレビ朝日系第11話「ねらわれた巨大野金貨」／85年1月22日 テレビ朝日系放映 カラー
監督／宮崎駿
原作／コナンドイル 製作／藤岡豊 ルチア・スカッファ プロデューサー・高橋美光 オリジナル・アイデア／マルコ・バロント グラフック・デザイン／ジミー・バロント 監督／宮崎駿 脚本・林敏敏がシリウス構成・山崎敬之・島崎真吾 美術監督／山本三三 撮影監督・高橋宏国 音楽監督／鈴木清司 録音監督／伊達康徳 編集・潮山武司 制作担当／竹内孝次 作画監督／近藤喜文 原画／田中敦子・丸山晃一・篠原征子・遠藤義章・浦谷千恵・色指定・山本智子 彩色・近藤初美・橋本直子・岩切紀雄・吉川真一・岡島國哉・豊永真一 美術／（TAF）松浦裕子・久村佳津・小間睦夫・太田清美 撮影・宮内征雄・細野正一・平山昭夫・安斎燐隆・大田勝美・小林武男 音楽／羽田健太郎 音響効果・東洋音響 録音技術／丹波晴道 タイトルデザイン／高島アトリエ 制作進行／笹原克彦 録音スタジオ／東北新社 現像所／東洋現像所 制作協力／テレコム・アニメーションフィルム 絵コンテ・演出／宮崎駿 製作／東京ムービー新社・RAI・REVER

名探偵ホームズ(制作順・第5話)／ミセス・ハドソン人質事件

1982年制作／86年8月2日東映系「天空の城ラピュタ」に併映公開 23分 テレビ朝日系第4話「ミセス・ハドソン人質事件」／85年11月27日 テレビ朝日系放映 カラー
絵コンテ・演出／宮崎駿
原作／コナンドイル 製作／藤岡豊 ルチア・スカッファ プロデューサー・高橋美光 オリジナル・アイデア／マルコ・バロント グラフック・デザイン／ジミー・バロント 監督／御厨恭輔 脚本・片羽須重 シリウス構成・山崎敬之・島崎真吾 美術監督／影山仁 撮影監督／若菜章夫 音楽監督／鈴木清司 録音監督／伊達康徳 編集・掛須秀一 制作担当／水沼健二・木村健吾 作画監督／近藤喜文 原画／丹中明子・篠原征子・遠藤義章・浦谷千恵・小野昌則・桜井隆子 動画／富沢恵子・佐々木昇・篠原征子・増田敏彦・館野和枝・吉川真一・岡島國哉・豊永真一 美術／（TAF）松浦裕子・久村佳津・小間睦夫・太田清美 撮影・宮内征雄・細野正一・平山昭夫・安斎燐隆・大田勝美・小林武男 音楽／羽田健太郎 音響効果・東洋音響 録音技術／丹波晴道 タイトルデザイン／高島アトリエ 制作進行／笹原克彦 録音スタジオ／東北新社 現像所／東洋現像所 制作協力／テレコム・アニメーションフィルム 絵コンテ・演出／宮崎駿 製作／東京ムービー新社・RAI・REVER

1992年11月～日本テレビ系放映／93年12月15日中野武蔵野ホール
「海がきこえる」に併映公開 15秒1本、5秒4本 カラー
監督・原画／宮崎駿
演出・原画・制作／スタジオナリ 製作／日本テレビ



3ヶ月に及ぶアフレコがやっと終了して、花束を受け取る石田ゆり子さんと松田洋治さん



9:03 港区MITスタジオのホワイトボードに「ものけ姫」アフレコ一日予定が書きこまれる。マイカーが24時のメモリを突っこってしまふ。一体いつ終わるのだろうか。

9:35 宮崎監督到着。取材のため待機していた本誌編集長を見るなり一言「またこんな所に怪獣が」眼鏡をとって顔をこする仕草に疲れがにじみ出ている。既に到着していた鈴木プロデューサーは、カウチでいそいそと靴下を脱いでいる。続いてジブリ制作部の米沢さん笑顔で到着。狭い通路にひしめく取材陣を見て「今日は大盛況ですね」スタッフフルムでは、宮崎監督持参のハンディつば押し器で盛り上がりつつある。エンジニアの女の子に「やってごらん」と勧め、あげてしまふ宮崎監督。どうやら肩もみにこっているらしい。スタッフ達と共に

アフレコ材

Recording session report

5 / 10 1997 最後のアフレコの日

延々コリ防止について語る。熱いシャワーで何だと鈴木さんと言いが合うが、宮崎監督の「結局歩くのが一番なんだよ」という言葉に、各自暇のない生活に思いを馳せたのか、静まってしまふ。何か物悲しい雰囲気の中、10時12分スタート。今日第一番はワラット達が山犬にふっとはされるシーン。宮崎監督「短すぎていいのかどうかも分からない」3分で終了。

10:58 トキと女達テスト開始。「生きてりや何とかなる！」力強い声で台詞が引き立つ。ヒロイン役で名高い島本須美さんが、ガラリとイメージを変えてタフな女を演じている。スタッフフルムでは鈴木さんが裸足でペタペタと歩き回っている。宮崎さんも裸足になったら？との声に鈴木さん「だって宮崎さん頭が裸足だから…」

13:00 第一陣終了。ねぎらいの言葉をかける宮崎監督

14:00 急に人が増える。宮崎監督小林薫さんに目を止め「合う度髪の色が違うね」テスト直前に室温を調整する宮崎監督「ぶてだとなねほとんど苦情が出ないんだよ」とのこと。

14:05 エポシ、ジコ坊アシタカのテスト開始。松田洋治さんタタラ場を「タタバラ」と言ってしまう。スタッフは大爆笑。しかし田中裕子さん、小林薫さんと

もに動けない。さすがプロ。続くテスト小林薫さんがスラスタと台詞をクリアする度、スタッフは思わず笑いを禁じ得ない。まさに絶妙の台詞回しで、ジコ坊のイメージそのままである。

16:00 田中裕子さん「クソオバケモノめ」で行き詰まる。普段使いたない言葉だからか試行錯誤を繰り返す。結局録り始めてから3回目にOKに。疲れた様子でちんまりと椅子にかけた田中裕子さん、自分の録音を聞くと一瞬動きが止まる。続いてエポシの最後の台詞「さあまない」へ。画面の構成がむずかしいせいもあり何度か指示を受ける。台詞にかえると「みんな始めからやり直したと一人言ともつかない言葉を発する。

17:58 エポシの「ここをいい村にしよう」の台詞にやっとなOKが出る。ジコ坊エポシ、サン、アシタカのメイソン4人の声優が揃い、スタジオが華やぐ。

18:22 ジコ坊テスト開始。小林薫さんの絶妙の台詞回しを聞きながら「神に畏敬も畏怖もないジコ坊は日本人の祖先なんだよ」と宮崎監督。次シーン、顔のアップが少なく、皆タイミンクを外し気味。調整が続く。アシタカをけりつけようとするジコ坊の掛け声が「イエー」と聞こえる、とのスタッフからのクレームに「いや「キエー」と言っているんです」と返す小林薫さん。本番はなるべく「キ」を強調し「キエー」という感じになった。シシ神の液体が押し寄せるシーン、ジコ坊の「来る来る」という台詞は楽しげに笑っている雰囲気。という注文に小林薫さん「じゃさっき逃げてたのは何だったんスか」と素朴な笑ひ。驚愕に引きつった感じで笑いをという所で落ちつく。それにしても小林薫さんのアドリフが毎回違うのには頭が下がります。ジコ坊のパート、滞りなく終了。

19:50 休憩。宮崎監督弁当を食べながら「ここに来ると三度キチンと食べるなあ」と呟く。

20:32 石田ゆり子さん演じるサンとアシタカのパートへ。「あー」「あっあっあっ」2人で発声練習するの聞きながら宮崎監督はじめスタッフ一堂、何やってんだ二人して「これから先オマジナイの如く

これを超える二人である。アシタカがサンを抱きしめるシーン、テストの合間に「アシタカっていいな」「ポソッと口に出す石田ゆり子さん。微妙な台詞の連続に戸惑っているのか、数回つかえてしまふ。その度に「オマジナイしなかったのか」と心配そうな宮崎監督

22:26 やっとなラストシーンに漕ぎつける。「ラスト、こんなに落ちついた声で？」と言う石田ゆり子さんに「いいんじゃない。精根尽きたってことで」と返す宮崎監督。松田洋治さん、石田ゆり子さんと相当疲れてきたらしく「ヤックル」と訳の分からないことを口走る。しまいにスタッフフルムの方をむいて「見て…みんな笑ってるよ…」

22:50 最後のOKの声でアフレコ終了。「お疲れ様でした！」のディレクターの声で皆一斉に立ち上がる。花を抱えて待っている宮崎監督と鈴木さんを逆に激写するおちゃめな松田洋治さん「お疲れ様でした」の言葉と共に、花束が松田洋治さん、石田ゆり子さんのお二人へ。「長かったなア。2月から3ヵ月もなかったもん」ホントお疲れ様でした!!

宮崎作品では常連の島本須美さん



「ハダシの方が気持ちいいよ」ハダシでスタジオを歩き回る鈴木プロデューサー



うーん、と台本を見て考え込む宮さん

「もののけ姫」キャスト&スタッフ

指 揮	熊 谷 弘		
CD制作	徳間ジャパンコミュニケーションズ 岡田知子		
録音スタジオ	ワンダーステーション		
音楽収録	石 原 裕 也 アバコクリエイティブスタジオ 古 川 健 二 MITスタジオ 池 場 達 也 西 島 理 恵 八十嶋祐樹 アバコクリエイティブスタジオ 金 井 光 晴 廣 岡 信 貴 録 音 東京テレビセンター		
光学録音	上 田 太 士		
デジタル光学録音	西 尾 眞		
タイトル	真 野 薫 吉田由香里(マリンポスト)		
編 集	瀬 山 武 司		
編集助手	水 田 経 子 内 田 恵 田 村 眞 子		
監督助手	伊 藤 裕 之		
演出助手	有 富 興 二 石曾根正勝		
制作担当	川 端 俊 之		
制作デスク	田 中 千 義 西 桐 共 昭		
制作進行	大 塚 浩 二 居 村 健 治 鈴木健一郎		
制作業務	野 中 晋 輔 望 月 雄 一 郎		
広 報	山 本 珠 実 己 長 澤 美 奈 子		
キャラクター商品開発	今 井 知 己 浅 野 宏 一		
インターネット	石 光 紀 子		
プロデューサー補	米 沢 敬 博		
出版担当	田 居 因		
宣伝プロデューサー	矢 部 勝		
東宝	新 井 重 人 伴 田 雄 輔		
メイジャー	脇 坂 守 一 岡 村 尚 人 土 屋 勝 一		
	小 柳 道 代 笹 田 文 代 机 ち ひ ろ		
	福 田 の ぞ み 加 藤 麻 里 子		
	原 美 恵 子 渡 辺 美 佳		
	特別顧問/徳山雅也		
予告篇制作	ガル・エンタープライズ		
	板 垣 恵 一 花 本 浩 子		
海外プロモート担当	スティーブ・アルバート 森 吉 治 予 濱 田 啓 路		
	「もののけ姫」製作委員会		
	徳間書店		
	大 塚 勲 室 井 實 塚 原 昇		
	伊 藤 純 子		
	日本テレビ放送網		
	坂 田 信 久 武 井 英 彦		
	漆 戸 靖 治 長 崎 佳 子 藤 本 鈴 子		
	伊 藤 和 明 門 屋 大 輔 紙 谷 知 子		
	野 元 佳 子		
	電通		
	桂 田 光 喜 野 田 孝 也 勝 田 祥 三		
	青 柳 教 哉 福 山 亮 一 曾 我 有 信		
	スタジオジブリ		
	古 林 繁 荒 井 章 吉 一 村 晃 夫		
	洞 口 朋 紀 駒 形 正 吾 藤 津 英 子		
製作担当	奥 田 誠 治		
特別協力	読売新聞社		
現 像	IMAGICA		
	タイミング		
	オペチカル		
	デジタルフィルム 1/0 平 林 弘 明		
	辻 込 正 晴		
	辻 込 英 男		
技術協力	森 幹 生 (コンチネンタルファースト株式会社)		
制 作	スタジオジブリ		
プロデューサー	鈴 木 敏 夫		
監 督	宮 崎 駿		

背景	景吉田 昇 春日井直美 長縄 恭子 斉藤久恵 伊奈 涼子 平原さやか 荒井貞幸 太田清美 谷口 淳一 長田昌子 佐々木洋明 田村盛揮				
特殊美術	福留 嘉 一				
特殊効果	谷藤 蕉 児二 橋爪 朋二 村上正博 榎原 豊彦 谷口久美子				
色彩設計	保田 道 世				
色指定	井 関 真 代 森 奈緒美 守屋加奈子				
仕上	小野 暁子 熱田 尚美 織田富美子 野村雪絵 山田和子 鈴木 栄 一 片山由里子				
スタジオキリー	岩切当志子 高橋直美 宮本智恵美 清水まり子 森沢千代美 渡辺信子 平井和広 谷島 香恵 石川香織 土屋裕美 工藤百合子 原井智恵 児玉 淳 浦山和恵 平良ふみ子 豊野君子 黒黒 静 吉田美夜子 高木小百合 後藤 藤恵 大隅昌子 佐々木恵子 角田和子 中釜かおる トレスマシ 柚木脇達己				
IMスタジオ	伊勢田美千代 尾崎 美人 鍋谷 恒 浅井より子 西村 豊美 森田 薫 安味香織 大内一美 木村裕美子 土満友美 佐藤けい子 赤沼茂子 前原 絹代 船崎 幸子 板原多恵 小林 一 夫				
トレス・スタジオ・M	安斎直美 相原 明子 杉山和歌子 金内 順子 醍醐 玲子 本橋恵美子 松尾めぐみ 大槻ひろ子				
東映動画	黒沢 和子 奥西紀美代 坂野 国恵 入江三帆子 五十嵐令子 古屋 純子 藤橋 清美 戸塚 友子				
テレコム・アニメーション・フィルム	山本智子 人位万里 長嶋さゆり 太田真樹子 石川恵里子 西脇好美 宮川 淳子 長岡 純子				
スタジオOM青森ワークス	アニメハウス はたしふる ピーコック ムッシュオニオン スタジオOZ スタジオアド				
技術協力	村尾 守 スタック 斉藤 芳郎 内外カーボインキ 太陽色彩 北村 繁治 CHROMACOLOUR INTERNATIONAL LTD. ROY EVANS				
デジタル・ペイント	石井 裕章 佐藤麻希子 杉 野 亮 服部圭一郎				
高橋プロダクション／T2 Studio	高橋加奈子 石堂めぐみ 村 田 ゆ き 下江由美子 垣田由紀子				
D.R MOVIE T&V					
CG制作	官野 嘉 則 百瀬 義 行 片 瀬 満 則 井 上 雅 史				
撮影監督	奥 井 敦				
撮 影	荻田 順二 高橋わたる 古 城 環				
音響制作	オムニバスプロモーション				
録音演出	若 林 和 弘				
録音演出助手	真 山 恵 衣				
録音・整音	井 上 秀 司				
録音助手	福原 正 博				
整音助手	浅倉 務 高 木 創(東京テレビセンター) 内田 誠(オムニバスプロモーション)				
効果制作	サウンドリング				
効 果	伊 藤 道 廣				
効果助手	石 野 貴 久				
効果協力	VOX				
効果音取材協力	猪飼 和 彦 渡 辺 基 時 田 滋 愛知県鳳来町 東京都北区弓道連盟 正宗工芸 加藤隆雄 山村綱廣				
音楽制作	ワンダーシティ 山下 幸 郎 滝 川 透 スタジオジブリ 稲 城 和 実				
音楽ミキサー	大 川 正 義 森 本 信				
演 奏	東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 ピアノ 久 石 譲				

声の出演			
アシタカ サン	松田 洋 治 石田 ゆり子		
エボシ御前 ジコ坊	田 中 裕 子 小 林 薫		
甲六 ゴンザ トキ 山犬 タタリ神 牛飼い	西 村 雅 彦 上 條 恒 須 島 本 美 哲 渡 辺 哲 九 佐 名 章 古 屋		
モロの君	美 輪 明 宏		
ヒイさま	森 光 子		
乙事主	森 繁 久 彌		
飯沼 慧 近藤 芳 正	坂本あきら 菅 原 大 吉	冷 泉 公 裕	山 本 道 子
斉藤 志郎 得丸 伸二	塚 本 景 子 香 月 弥 生	中 村 彰 男 山 本 郁 子	杉 浦 一 恵
飯沼 希歩 おちひろ 深澤 幸太 浮部 幸太 原田 敦 加角 英二 角田 文 安藤 恵理子 二階堂 美由紀	松 山 鷹 志 名 倉 勝 和 林 和 伸 渡 辺 剛 福 近 一 村 大 和 高 肇 藤 貴 子	ほうしげと 瀬野 雅彦 岡崎 良章 増田 昭子 吉岡 亜紀子 鹿嶋 優子 植 草 世	三宅 重信 代 健 富 桑 外 明 小 吉 亮 坂 見 絹 田 下 の 藤 島 凛 巻 直 哉
スタッフ			
製作総指揮	徳 間 康 快		
制 作	氏家 齊一郎 成 田 豊		
原作・脚本	宮 崎 駿		
音 楽	久 石 譲		
主題歌	「もののけ姫」 作詞 宮崎 駿 作曲 久石 譲 編曲 久石 譲 唄 米良美一 (徳間ジャパンコミュニケーションズ)		
作画監督	安 藤 雅 司 高坂希太郎 近 藤 喜 文		
原 画	大塚 伸治 篠原 征二 清水 典子 賀川 愛 小西 賢一 渡邊 正明 清水 洋子 田 務 箕輪 博子 三原 三千雄 大谷 敦子 村 武志 芳尾 英明 二木 真希子 山田 勝世 稲 信 山森 英司 吉田 健一 松田 一勝 世 名 松尾 真理子 河口 俊夫 野田 武弘 杉野 左 近藤 勝也 河田 伊功 田中 敦子 田中 敦子		
テレコム・アニメーション・フィルム			
動画チェック	館野 仁美 中村 勝利 中込 利恵 高 藤 昌哉 小野田和由		
動 画	手島 晶子 大村まゆみ 北島由美子 真野 鈴子 坂野 方子 柴田和子 倉田美鈴 沢 九里 鈴木麻紀子 鈴木まり子 菊地 華 鶴岡耕次郎 田村 篤 野口 美津 藤井 香織 米 林 宏昌 矢地 久子 山田 珠学 川田 学 佐 光 幸恵 アレキサンドラ・ワエラウフ ダビッド・エンシナス		
東 誠子 山浦由加里 西戸スミエ 横田喜代子 富沢 恵子 コマサ 岐 弥生 柴田絵理子 長崎 陽子 椎名 律子 岩柳恵美子 森 森 まや 近藤 梨恵 常木 志伸 古河 浩美 渡辺 恵子 谷平久美子 矢野 守彦 古屋 浩美 安 達 彦 山本まゆみ 中山 大介 田辺 正恵 新 留 理恵 松下 敦子 太田久美子 清水 理枝 安 留 理恵 小林 幸子 手塚 寛子 原口 ちはる			
テレコム・アニメーション・フィルム			
飯沼 慧子 渡邊奈津子 矢 沢 真由 東 樹 葉子 中路 景子 毛利志乃 高 雅子 上 田 峰子 板垣 伸 安留 博子 富 野 昌 江 式部 美代子 与 沢 桂子 平井 和子 藤 倉 雅代 宇 田 明彦			
作画協力	アニメトロロ オープロダクション スタジオコクピット スタジオたくらんけ グループどんぐり		
美 術	山本 二三 田中 直哉 武重 洋二 黒田 聡 男 鹿 和雄		